

在墨片山潜の書簡と草稿類，1921年

山内 昭人

まえがき

在墨片山書簡

在墨片山草稿類

在露片山報告 あとがきにかえて

まえがき

本誌499号での史料紹介「日本社会主義者とコミンテルン・アムステルダム・サブビューローとの通信，1919-1920年」に続いて今回，片山潜のメキシコ滞在時（1921年3月31日～10月28日）の書簡および草稿類を摘記要約のうえ訳出する。これによってメキシコ時代の片山の活動実態が初めて本格的に解明できることになる。

史料紹介のしかたは，前回どおりとするが，以下を付記しておく。今回は片山の活動の全容を捉えることを第一と考えたので，一部史料を除いたり，抄訳とはいえ特定の事項を省くことはしていない。ただし草稿類の訳出は，分量と内容の粗密の問題から全体にわたってはしよった箇所が多い。片山の英文には不備が散見し，一部推定を加えて訳出したところがあるが，煩雑を避けるために逐一断っていない。また注記は，日本社会主義者に関するものに相対的に力点がおかれているものの，全体的に掘り下げが十分とは言えない。二つのメキシコ共産党をはじめ当地の社会主義運動についても，また片山を中心としたコミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシーの活動についても，全貌をつかむにはなお史料調査を必要とする。十分な注記が果たせるまで待つよりも，原史料の内容を直に紹介することを優先しての措置であることを諒とされたい。なお，片山はモスクワ到着（1921年12月14日）直後にエイジェンシーについての総括的報告をまとめており，それをあとがきにかえて紹介する。

今回紹介する史料は最後のを除いてすべて，モスクワのロシア国立社会-政治史アルヒーフ（〔ルガスビ〕；ルツヒドニを改称したその新名称が定着したようなので今回から使用する）の片山文庫（フォント521）にあるもので，その中のオーピシ1，ジェーロ17にある全書簡（写し）と草稿類を収録している（片山文庫全体は1オーピシ，96ジェーロから成り，1896年から1959年までの史料がある）。

それでもなお，テキストの中の言及等によれば収録漏れがある。片山のコミンテルンへの報告類

については、直に確認できていないが、フォント495のオーピシ18に現物が存在するようで、同オーピシはコミンテルン執行委員会文庫のうち同書記局のファイルであり、1422ものジェーロの中をジェーロ66（ - 参照）を手がかりに現物を探る必要がある。また、フォント495、オーピシ108にも当該史料があり、それはメキシコ共産党のファイルで、231のジェーロがある。

在墨片山書簡

- 1921年4月6日 [Katayama]/Mexico City, Mexico to Allen [M.Cohen; - 参照]

[hereafter cited as], 521/1/17/1 (1×; typed duplicate)

・3月末日に私はメキシコ市に到着した⁽¹⁾。3月23日にニューオーリンズから蒸気船に乗り、3月30日にベラクルスに到着し、翌日無事ここに来た。
・私はあなたが幸いにも合州国を去り、あなたの指定の場所 [ブエノス・アイレス] に到着することを願った [- 参照]。Cynthia [未詳] は無事あなたと一緒にいるものと思う。
・トムソン (Thompson) [フレイナ] は the old country [ヨーロッパをさすのであろう] に戻り、ジョンソン (Johnson) [ヤンソン (K.Jansons)] は n.y. [ニューヨーク] での彼のビジネスでなお忙しく、私は the c. [メキシコ・シティ] で全く一人だ [- 参照]。けれども、私の仕事を直ちに始めるつもりだ。既に私は当地でサンプル [代表] を選んだ、それを私は期待されるマーケットに送ることを期している。私はあなたの所にも商売の見込みを定期的に、一種の週報 [機関誌] で送ることを願っている。当地で二つの会社 [共産党; - 注1参照] の合併は今やほとんどなし遂げられた事実である。届いたばかりの本社 [コミンテルン執行委員会] の指令は、[合併の] 期限を6月1日に設けた⁽²⁾。

(1) 片山は出発に先立って1月末、ニューヨーク総領事館に赴き「実弟『水尾芳雄』ノ病気見舞ノ為メ」と偽ってメキシコ市への旅行を申し出て査証を得た。在紐育総領事熊崎恭の外務大臣内田康哉宛暗号電信、1921年1月19日着、外務省外交史料館、4.3.2.1-1(12)。

(2) コミンテルン執行委員会（以下、ECCI と略記）は、早くも1920年9月29日の小ビューロー会議で片山、フレイナ、ヤンソンから成るアメリカン (= パンアメリカン) ・エイジェンシーの創設を決議し、10月12日の小ビューロー会議でその任務を以下のように設定した。すなわち、文献の普及、アメリカ大陸諸国の共産党およびグループの創設の援助、コミンテルンに加盟した党への財政的援助、そしてコミンテルンのロンドン出版部と接触して『共産主義インタナショナル』スペイン語版の刊行である。ただし ECCI は、半年前にアムステルダム・サブビューローを解散したように、8月6日の「もっぱら技術的な目的のために単独で行う個人的なエイジェントだけを許す」とのロシア共産党(ボ)中央委員会政治局の決議を受けて、二日後に「執行委員会と並んで政治的任務をもった他のいかなるビューローも存在しないように要求する」ことになり、国内外の補助ビューローはひとまず姿を消した。 . .

／．．．／．．．， *Организационная структура Коминтерна. 1919-1943* (， 1997)， 29-30, 34. パンアメリカン・エイジェンシーもそのような「個人的なエイジェント」として位置づけられたのであり，そのことはまた，ECCI の一存で容易に解散させられる性格の機関であったことを意味する（ - ， - 注3参照）

- 1921年4月22日 [Katayama]/Mexico City, Mexico to M.Kobezky [．．． ； of the Small Bureau of the Executive Committee of the Communist International] ， 521/1/17/2-4 (3 x ; typed duplicate)

・あなたが送ってきた文書に関して調査を私に求めたテーマについて，私はゲイル [Linn A.E.Gale] にもその文書にも非常に重大な過失を何ら見いだすことができない。けれども，私が当地に行き自ら調査した時，私の意見を変えるかもしれない。

・事の真相を語れば，ロイは M.C.P. [メキシコ共産党] の信任状を濫用した⁽¹⁾。才能と経験に満ちた彼は，自らが真の力をもった共産党もメキシコのプロレタリアートもいづれも代表していないことをよく知っていた。信任状を得た時，ロイは第3インタナショナルの第2回大会にそれをもって彼が認められるというただそれだけの目的を考えの中に入れていたにちがいない。それ故，私は結論を下さなければならない。ロイに対して三つの組織によって提起された抗議は否定できない，せいぜい彼の行為は「目的が手段を正当化する」と言われるべきだと。

・ロイと仲間として交際したヘスス・ラミレスは，ヨーロッパにいた間同志 Littlebit [フレイナ] に雇われ，現在私と一緒に働いている⁽²⁾。

・ゲイルについて言えば，私はむしろ現時点では多くを言わない。ゲイルは，三つの組織をしてロイへ抗議させた男であり，ロイの第一のライヴァルであった。ゲイルのアメリカにおける，またメキシコ市のアメリカ人居留地における不人気は，とくに同志の中でよく知られている。しかし同時に，彼の尽きないエネルギーと不撓不屈の活動は，彼の友人と同様に敵によっても認められている。疑いなくゲイルはベンと舌を備えた偉大な闘士であり，忠実な妻 [Magdalena] によって手助けされ，そして彼女自身の骨折りの財政的支援は，ゲイルの諸活動におけるまさにその力であった。ゲイルの真の性格については，判断が変化している。敵からは徹底した煽動者とみられたり，あるいは神経症に苦しむ男とみられたりするが，私にとっては，彼は有能で，攻撃的で，性急で，そして無頓着で，しばしば妥協的なアメリカに典型的な成り上がり青年である。1890年代のウィルシア [H.G.Wilshire] にみられるタイプであるし，今日ではリードやイーストマン (M.Eastman) らにみられるタイプである。私はまだゲイルに会っていない。ここで私が語るすべては，彼の雑誌の諸論文からの又聞きである。

・ゲイルはメキシコ政府によって数日前に追放されたが，しかしグアテマラ政府が彼 [の入国] を認めず，今なお拘禁されてメキシコ市にいる。ゲイルの追放の直接原因は，『ゲイルズ』3月号に載った彼の論文（本状と一緒に送るつもり）⁽³⁾であったが，しかしその追放には合州国政府のまさにその圧力があつたと言える。ゲイルは国際的に帝国主義と資本主義の犠牲と考え

られる。彼にとって最も悲しいことは、メキシコで非常にわずかの信奉者とあまりに多くの敵をもっていることである。

・共産党について言えば、ゲイルの党も、ロイの党も、実際いかなる意味でも政党ではない。両党とも、一握りの人民から成っている。両党とも二、三の良い同志をもっている。名前において二つの党が存在しているので、私は一つの名の下で新しいスタートを切ろうと試みている。それは合州国においてほどそれほど困難でないように思える。

・以上が、昨年私に送られてきたあなたの依頼に対する私の報告である⁽⁴⁾。

(1) ゲイル率いるメキシコ共産党 (Partido Comunista de México) 創設 3 カ月半後の1919年11月24日、メキシコ共産党 (Partido Comunista Mexicano) が全国社会党を改名してロイ、ラミレス (注2) らによって創設された。前者は本文にあるゲイルの国外追放により解体されることになる。後者の創設にあたっては同年11月初めにコミンテルンから派遣されてきたボロディンの影響が顕著であった。L. & V.Kheyfetz, "Michael Borodin. The First Comintern-emissary to Latin America," *The International Newsletter of historical Studies on Comintern, Communism and Stalinism*, Vol.2 (1994/95), No.5/6, 148; . . . , *Латинская Америка в орбите Коминтерна (Опыт биографического словаря)* (. . . , 2000), 30, 149; *Коминтерн и Латинская Америка. Сборник документов* (. . . , 1998), 18-9; cf. B.Carr, *Marxism & Communism in Twentieth-century Mexico* (Lincoln/London, 1992), 27. 後者の共産党は、執行委員会書記長ホセ・アレン (José Allén) の名で1920年1月12日付の信任状をロベルト・アレン (Roberto Allén = M.N.Roy) とその妻 (Helen B. Allén) に与えることになり、後者の信任状は、コミンテルン第2回大会開幕直後の7月21日に同党執行委員会メンバーであり訪露していたラミレスに譲られた。 . . . , 489/1/30/2, 489/1/30/10, 489/1/30/88, 497/2/5/1.

(2) ラミレスは本名フィリップス (Charles Francis Phillips) で、1918年5月に徴兵を忌避して妻 (Eleanor) とともに亡命したアメリカ人ジャーナリストであり、スペイン語を操り、時代順に主として4つの偽名 (Frank Seaman, Jesús Ramirez, Manuel Gómez, Charles Shipman) を使い分けた (本稿での表記は本名で統一する)。フィリップスには以下の二つの回想があり、とりわけ後者が詳細で近年よく利用されているが、(ロイの回想同様) 日付の誤りや事実誤認が目立つ。M.Gomez, "From Mexico to Moscow," *Survey*, No.53, X.1964, 33-47; No.55, IV.1965, 116-25; Ch.Shipman, *It Had to Be Revolution. Memoirs of an American Radical* (Ithaca/London, 1993).

1919年12月初め、フィリップスはボロディンの通訳を兼ねてキューバを経てスペインに向かい、ボロディン出発後もしばらく当地でスペイン共産党の旗揚げと同機関紙の創刊をめざす活動に関与したあと、ロシアへ向かい、上記のコミンテルン第2回大会に出席する。 . . . , *op. cit.*, 173-4; . . . , 581/1/108/67. その第2回大会にアメリカ共産党とメキシコ共産党をそれぞれ代表して出席したフレイナとフィリップスは、パンアメリカン・エイジェンシーを創設するためメキシコに赴くことになり (- 注2, - 注2 参照), 途中ベルリンまでその

手配を整えるためポロディンが同行した（モスクワを恐らく10月15日に出発）。両者ともモスクワで結婚し、フィリップスは法的には重婚だが、新妻（Natalia）を同伴し、フレイナの妻（Esther）も後からベルリンにやって来た。当地でドイツ婦人が経営する下宿に隠れ住んでいた間、ポロディンとフレイナは名前を知らされなかった彼女からそれぞれ“Der große Herr”と“The Little Bit”と呼ばれていたが、後者がフレイナの風変わりな偽名の由来である。フレイナは90日間ベルリンに滞在したあと、妻を残してロンドン、リヴァプール、モントリオール経由でニューヨークへ向かい、フィリップスは妻とともにアントワープ、ニューヨーク経由で一足早くメキシコへ向かう。Esther Corey, “Passage to Russia. A Personal Reminiscence,” *Survey*, No.55, IV.1965, 109; Shipman, *op. cit.*, 128; Correspondence of the Military Intelligence Division of the War Department General Staff, 1917-1941, RG 165 [hereafter cited as Correspondence of MID], File No.10058-24-155, National Archives and Records Administration [NARA], Washington, D.C.

(3) *Gale's*, Vol.4, No.7[8], III.1921 [論文名未確認].

(4) ここでは片山は、前稿（本誌499号）で注記したように『ゲイルズ』への寄稿を重ねていたからでも恐らくあろう、コミンテルンの大勢がロイ支持でほぼ決まったとみられる中で両者を公平に扱おうとしている。実は、このロイ支持の流れはほぼ1年前、以下のようにコミンテルン・アムステルダム・サブビューローが関わって固められていた。すなわち、サブビューローは両者の対立に一時悩まされた。ゲイルは『ゲイルズ』への寄稿者シルヴィア・パンクハーストを頼って、ロイにはメキシコの共産党を代表する資格がないと非難する長文の弁明書簡を送りつけ、それはリュトヘルスへ転送された。一方、ポロディンがメキシコからの帰途、スペインでの活動後アムステルダムを訪れ、リュトヘルスとじっくり話し合う機会をもった。ロイの党の創設に深く関与したポロディンは、両者の仲を取りもとうとはせず、ロイは良き共産主義者であり、ゲイルが自分自身の名をつけた月刊誌を発行していることが既に悪い兆候であるとみて、ゲイルにだけは注意するようリュトヘルスに警告した。1920年6月初めリュトヘルスは、離れた国の状態を判断するのはむずかしいとしながらも、当面の結論としてポロディンの判断に信頼をおいた。 , 497/2/1/39-40, 497/2/2/199-200a, 497/2/5/9-12; cf. L. & V.Kheyfetz, *op. cit.*, No.7/8, 186-7.

- 1921年5月3日 [Katayama]/Mexico City, Mexico to Comrades C.[Cynthia?] and Sara , 521/1/17/6 (1x; typed duplicate)

・道中無事だとの便りをもらって、うれしい。数週間前、B.A. [ブエノス・アイレス]の一同志気付であなたがた宛の手紙を書いた。あなたがたがそこへ来しだい、きっと読んだにちがいない。

・私は当地に4月[3月の誤り]31日に来て、今一月と少しが過ぎ、その間私はかなり忙しかった。本社は我々に二つの会社を合併する全権を与えた。この知らせを受けてS.[スコット＝ヤンソン]は性急に行動し、袋小路に陥った。ここに独裁的な権限を取り上げるもう一つの指

令が来た。かくして袋小路は破られたが、合併が今月中に完成されるか確かでない。期限は6月1日におかれている。

・合州国において仕事は、あなたがたが発つ時起こり、まだ回復していない沈下ゆえにのろい。あなたがたは little bit [Littlebit = Fraina] が G. [ドイツ] に戻ったことを知っているか。私は彼が今 M. [モスクワ] にいると確信している！ S. は困難な諸問題で忙しい。

・私は臨時の会社を組織し、一人を海を越えて見込みのある市場へ送った⁽¹⁾。そして、この最も希望に満ちた国において我々の仕事を宣伝するために小さな週報 [- 参照] を始めた。二つの対立する会社はほとんど合併されつつある。我々の週報は B.A. のあなたがたの友人の会社に送られている。

・あなたがたがその国でのすべての仕事を処理しだい、手紙を私に書いてほしい。

- (1) ディアス・ラミレス (M. Díaz Ramírez) がメキシコ共産党と労働者総連合 (CGT; アナルコ-サンディカリスト系で、後述の CROM に対抗して1921年2月創設) からの信任状を携え1921年4月初めに発ち、途中ニューヨークでスコットから推薦状をもらい、5月15日に入露を果たし、コミンテルン第3回大会およびプロフィンテルン創立大会に出席する。 , *op. cit.*, 66-7; Correspondence of MID, 10058-0-3-163; Records of the Federal Bureau of Investigation [1908-1922], RG 65 [hereafter cited as Records of FBI], File No.202600-1699-6, NARA (最後の史料については二村一夫氏所蔵のマイクロフィルムを利用させていただいた)。

- 1921年5月26日 [Katayama]/Mexico City, Mexico to Comrades [in Moscow]
, 521/1/17/15 (1 × ; typed duplicate); 495/108/11⁽¹⁾

・以前あなたがたに報告したように、当地での我々の仕事は良いかたちになりつつある。赤色労働組合インタナショナルの臨時メキシコ・ビューロー⁽²⁾が非常に良いプロパガンダ活動を行いつつあり、多くの組織がプロフィンテルンに加盟した。我々はメキシコ市の外へプロパガンダを始める時機だと考え、国の4つの重要な産業中心地に向けて2週間のツアーに2名の同志を出発させた⁽³⁾。

・我々の機関誌『労働者』[“ El Trabajador ”; 4月23日創刊と推定される]は発行部数を増やしつつある。一般労働組合員から勇気づけられる批評を受け取っている。

・今月16日に突然同志ヘスス・ラミレスがいかなる理由もなしに逮捕された。私は私の部屋から離れ、身を隠した。これまでのところ私は、この報告書をあなたに書いているように安全だ。私の特別な命令と忠告にもかかわらず、ラミレス夫人の賢明でない行動によってラミレスが警察当局に逮捕されたし、もう一人の同志もトラブルに巻き込まれて逮捕された。それ以来、プロパガンディストとして国中に派遣した同志たちが捕えられ、いく人かは既に追放されていることをおそれる。今皆で12か14名が逮捕されている。すべての外国人の赤い煽動家は憲法第33条によって裁判なしに即刻国外に追放されるであろうことが政府の方針である、と政府が宣言

した⁽⁴⁾。労働者はその追放命令に抗議し、報道機関に力強い抗議と請願の文書を送ったが、むだだった。プロフィンテルン加盟の組合は次々と追放反対の力強い抗議を採決した。

・そのようなことで我々の仕事はしばらく遅れたが、しかし我々は週報をきちんと刊行してきている。第6号が次の土曜日に出るだろうし、我々ではできる限り続けるつもりだ。

・合州国の私の同僚が補強要員を送ると約束したが、そうしていない。それで私が現在の情況下で多くをなすことは不可能である。けれども私は揺るがず、メキシコ政府がその傀儡であるアメリカ帝国主義との闘争に最善を尽くすつもりだ。私はあなたがたの迅速な補強と支援を求める！

(1) スペンサーの調査によれば、現物はフォント495、オーピシ108にあり、モスクワの同志へ宛てたものである。D.Spenser, *The Impossible Triangle. Mexico, Soviet Russia, and the United States in the 1920s* (Durham/London, 1999), 48, 203; - 参照。

(2) 赤色労働組合インタナショナル（プロフィンテルン）は、1920年7-8月のコミンテルン第2回大会閉幕後暫定的に組織され（国際労働組合評議会）、1921年6-7月のコミンテルン第3回大会に連続して7月に開かれた創立大会で正式に実現した。本稿では片山の表記（Red Labor Union International; R.L.U.I.）にかかわらず主として通称（プロフィンテルン）を用いる。

ここで、パンアメリカン・エイジェンシーとその直前の組織ラテンアメリカン・ビューローとの関係、また前者とプロフィンテルン臨時メキシコ・ビューローとの関係について（解明できた限りにおいてだが）まとめて説明しておく。

ラテンアメリカン・ビューローは、ポロディンの提案によりロイらのメキシコ共産党創設時に暫定的に創設され、ホセ・アレンがビューローの書記長を兼ね、他のメキシコ人（Elena Torres, A.Ruiz）とたまたま当地で一緒に活動していたペルー人（L.Hurmachea）とアメリカ人（Brewster = M.Birnbaum）から構成された。1920年1月4日帰路途次のマドリッドからポロディンはアムステルダム・サブビューロー（リュトヘルス）へ、南北および中央アメリカと西インド諸島の代表によるラテンアメリカ大会を開催するためメキシコにビューローが創設されたことを伝えた。大会の主目的は、すべての共産主義分子を統合して第3インタナショナルのラテンアメリカ支部を創設することであった。大会準備のために『ソヴェト』（*El Soviet*）が刊行されはじめ、またマドリッドでも国際情勢と絶えず接触するためのビューローを組織しつつあることも伝えられた（同じスペイン語圏であるスペインとメキシコを介してヨーロッパとアメリカを結ぶ計画があった）。2月15日にリュトヘルスはアムステルダム・サブビューローを代表してポロディンに返答した。スペインとの関係、そしてスペインを通じてメキシコのパンアメリカン・ビューローとの関係を我々は維持すべきであり、『ソヴェト』の刊行を支持するけれども、手元に資金がなく、ベルリンにある我々の資金が送られてきた場合、メキシコへいくらか送金するであろう、と（厳密には『ソヴェト』はラテンアメリカン・ビューローの機関誌ではなく、メキシコ共産党および同ビューロー創設以前に社会党内の「赤い兄弟グループ」によって刊行された）。, 497/2/1/1-4, 497/2/1/12; L. & V.Kheyfetz, *op. cit.*, No.5/6, 148; No.7/8, 185; *Коминтерн и Латинская Америка*, 18-9; *El*

Soviet. Semanario de propaganda socialista (México), Tomo 1, No.1, 13.X.1919, 1, 3. この返答は、ちょうど1週間前アムステルダム・サブビューロー主催の国際会議で採択された「国際ビューローに関する決議」を踏まえていた。すなわち、会議ではフレイナが代表したアメリカ共産党へ南北アメリカのためのサブビューロー創設と汎アメリカ会議の組織化の権限が委任されたのだが、後者については「メキシコでなされた準備が利用されるべきである」と、そして「このビューローは恐らくメキシコをその所在地に選ぶだろう」と明記された。*Bulletin of the Sub-bureau in Amsterdam of the Communist International* (Amsterdam), No.2, III.1920, 8.

アムステルダム・サブビューローの決議を受けて、早くも3月25日にアメリカ共産党中央執行委員会によってパンアメリカン・ビューローが暫定的にニューヨークで組織された。同党の3名が当面暫定組織を担うことになり、「常設ビューローが設立されるであろう会議を召集するため連絡がつくやいなや南アメリカ諸党の代表がビューローのメンバーに加わる」こととした。とはいえ同党中央執行委員会は、既に解散させられていたアムステルダム・サブビューローへ7月8日に届くことになる書簡で、「我々は汎アメリカ会議についての仕事に着手したいが、しかしそれを行う前にメキシコのサブビューローについて……とくにその活動と誰と我々が接触するかについて追加情報を得たい」と問い合わせる始末で、同党が一方的にイニシアティブをとったことがわかる。*The Communist. Official Organ of the Communist Party of America* (Chicago), Vol.2, No.3, 5.IV.1920, 1; , 497/2/2/216.

メキシコのラテンアメリカン・ビューローの方もまた、それまでの活動を踏まえ1920年8月8日に機関誌をディアス・ラムレスを編集長に創刊し、改めて創刊号においてアメリカ共産党の後援の下に汎アメリカ共産主義会議をメキシコで召集する権限が与えられたことを表明し、予め6項目の主目的を掲げた。その第5項目には「日本と極東におけるプロパガンダを広め、関連づける目的で日本人の仲間との共同を得ること」とあり、上記「国際ビューローに関する決議」に続いて採択されたアメリカン・サブビューローの創設に関する決議の中でその職務の一つに掲げられた日本および極東との連絡（前稿、50頁では、その職務をアムステルダム・サブビューローのそれと誤って記したが、ここに訂正する）を、メキシコのビューローが引き継ごうとしていた。“La Conferencia Comunista Pan-Americana,” *Boletín Comunista. Organo del Bureau Latino Americano de la Tercera Internacional* (México), Año 1, No.1, 8.VIII.1920, 7. かくして二つのビューローが連絡を十分取り合わないままそれぞれ活動することになったが、その上にパンアメリカン・エイジェンシーの設立がモスクワで決まった。解散させられたアムステルダム・サブビューローの決定よりも ECCI の決定が優先するのは当然で、資金不足も重なって汎アメリカ共産主義会議開催の目処がたてられない両ビューローは、資金豊富なパンアメリカン・エイジェンシーに取ってかえられていく。後者の活動については、さしあたり片山の総括的報告（ - ）に委ねるとして、最後にフレイナとフィリップスがモスクワを発つ前に依頼されたもう一つの任務について触れておく（なおヤンソンも、コミンテルン第2回大会には間に合わなかったけれど、続くバクーでの東洋諸民族大会には参加し、そのあとモスクワに戻り、10月半ば頃に出発する[V.シテインベルク「『カ

ール・ヤンソン伝』(6)」村田陽一訳『大原社会問題研究所雑誌』379-380号, VI-VII.1990, 146] までの間、エイジェンシーの件で兩人と接触がありそうなものだが、その形跡は今のところ確かめられていない。

それは正式にはまだ創設されていないプロフィンテルンのビューローをメキシコに設立することであり、その任務は一足早く1920年12月末に新妻を伴ってメキシコに戻ったフィリプスが主として担った。その時名ばかりの存在となっていたメキシコ共産党のホセ・アレンらわずかな同志の協力を得て、4月半ば頃フィリプスは「メキシコ共産党」の特別会議を召集し、国内のすべての共産主義分子を統合するためのコミンテルンからの信任状を示した。そこで、かつてゲイルの共産党に参加した共産主義者を本党へ加えるため招請することが決定された（それは恐らく4月11日付で片山の署名のある「統一への基礎」を踏まえていたのであろう）。その一方で、フィリプスは AFL 系の汎アメリカ大会の開催（ - 参照）に対抗して、来る3月にモスクワで開催される予定であったプロフィンテルン創立大会への支持を表明すべき「赤色労働者大会」の開催を呼びかける活発な宣伝を行い、さらに4月1-5日に片山と初会談したうえで翌6日にプロフィンテルンの臨時メキシコ・ビューロー（Bureau Provisional Mexicano）を組織した。表向きフィリプスはその一員とならず、それはすべての関与グループから各1名で構成された。すなわち、共産主義青年連盟（ - 参照）からヴァラデス（J.C.Valadés）、CGT からルービョ（J.Rubio）、メキシコおよびタンピコの IWW からベイリ（M.Paley = H.M.Levine）、メキシコ労働者地域連合（CROM; 1918年5月に正式創設で、執行部は AFL 系列下）からパス（Leija Paz）。4月15日にフィリプスはウェインコープ宛書簡で、臨時ビューローの創設と来る23日土曜日には週刊『労働者』が創刊されるであろうことを伝えた。 , *op. cit.*, 35, 174; Correspondence of MID, 10058-0-3-141, 10058-0-3-143, 10058-0-3-145, 10058-0-3-167（これら米国軍情報部報告は実は、内通者ホセ・アレンからの内部情報であり、それは彼が1921年5月18日に逮捕され、メキシコ国籍をもちながら一時合州国へ追放されるまで続いた。Spenser, *op. cit.*, 21, 198; Carr, *op. cit.*, 20-1, 332; D.K.Christopulos, *American Radicals and the Mexican Revolution 1900-1925* [State Univ. of New York at Binghamton, Ph.D.diss., 1980], 419-20, 435); , 581/1/63/48; 井出洋「片山潜の国際活動 反戦平和のたたかいを中心に（中）」『「赤旗」評論特集版』12.XII.1983, 26-7.

- (3) 5月半ばにタンピコなどへ派遣されたのは、ルービョとベイリである。Correspondence of MID, 10058-0-3-169.
- (4) フィリプス夫妻の他、スペイン人サン・ヴィセンテ（S.San Vicente）とルービョ、アメリカ人ベイリ、それと片山が直接接触していたとの密偵報告のあるイギリス人フォートメイア（Fortmayer = W.J.Foertmeyer）らが追放された。Christopulos, *op. cit.*, 433-5; Correspondence of MID, 10058-0-3-169; Records of FBI, 202600-58-11.

- 1921年5月31日 7/7 2/3 8/21 6/3 4/1[Yavki=Katayama]/Mexico City, Mexico to Cynthea , 521/1/17/16 (1×; typed duplicate)

・以前私は、ブエノス・アイレスからのあなたの手紙への返答をあなたの目的地に書き送った。あなたは受け取ったかしら。2週間前に当地で事態が変化した。それで私はあなたに現在の状況を書きつつある。[以下、“Page 30”(恐らく暗号用のテキストの頁だろう)と記されたあと1), 2), 3)と箇条書きで6行ほど数字の暗号が続く⁽¹⁾。]

・当地の気候はすばらしく、暑くも寒くもなく、年中春だ。私には多くの果物と米がある。とはいえ、私は出かけるべき友もなく寂しい。しかし、きっと私は大丈夫だ。昼も夜も働き、計画を練っている。

・私にすぐに手紙を書き、あなたの旅行を、そしていかに新しい場所でやっているかを語ってほしい。ジャネット[・パール]が私に数度、否恐らく10数度書いてきた。彼女は大丈夫だ。ただ少し頑固で、あまりに独立心が強い。残念なのは、彼女が悲観的であることだ。私は彼女に[暗号が続く]を勧めてさせようと試みている。彼女が何をするつもりか、わからない。

(1) 例えば、2/3だと2行目の3番目の文字となる仕組みの暗号だが、テキストが不明のため判読できない。以下、同様。

- 1921年6月21日 4/8 3/2 4/3 6/3 4/2[Yavki=Katayama]/Mexico City, Mexico to Comrade[s]
Charles [Charles E. Scott?] and Cynthea
, 521/1/17/17 (1 ×; typed duplicate)

・2, 3日前に私はニューヨークからのあなたがたの覚書を受け取り、あなたがたが大丈夫だとわかった。あなたがたが途中私に書いてきて以来、私は二度あなたがたに書いた。我々の連絡は今良くない。5月16日以来私はMagnolia 168番地宛のいかなる手紙も得ていない。すべて押収されている。タナー(Tanner)[フィリップス]が逮捕され、パナマに追放された。他の多くも。すべての外国人が今追い出されている。私は実際絶えず危険の中にいるが、同志の親切な庇護のおかげでこれまでは安全だが、将来何が起こるかわからない。タナーと彼の妻は最も不注意で無思慮であることがわかった。彼らのために少なくとも最良の同志の一人が逮捕され、追放された。

・あなたがたが古い住所に送るものは何でも再度新しい住所に送った方がよい。我々があなたがたの所に定期的に送っている我々の機関誌を読んでいるものと確信する。創刊以来、ちょうど10週である。ほんの2, 3日前に我々は我々のビューローとともに潜行することを決した。かくして仕事はますます困難となりつつある。私は今機関誌のための二つの論文をほとんど仕上げている。我々の小さな週報は労働組合員の中に影響力をもちつつある。先週1,500部出した。我々は今一人のタイピストと一若者を雇っている。後者は週報の郵送を手伝っている。私は絶えず仕事で忙しい。

[最後の2行から成るパラグラフは、“Page 27”のあと数字の暗号が続く。]

- 1921年7月27日 Y[avki]/Mex[jico] to Comrade [Jeannette D. Pearl]
, 521/1/17/88 (1 ×; typed duplicate)

・日付なしのあなたの手紙を受け取った。気の毒ながら、あなたはあなたの夏休みを生き生きと楽しんでいない。生理的に、またある程度精神的に苦しんでいるようにみえる。同じ年若い者よ！ あなたは過去にあまりに多く生きている。常に現在に行き始めよ。それから自分自身を失望させないように。以上が、あなたの手紙を読んで私が得た感情と印象である。

・私の原稿について言えば、ロチャ宛の小包の書留便で私に送ってほしい⁽¹⁾。それが8/9. 9/11によって大いに使用されてもらいたい。もしあなたがそれに手を入れうるならば、非常にありがたい。それから私はそれを当地で英語の代わりにスペイン語で公表するだろう。

[以下、改行して暗号混じりの二文が続く。]

・私の個人的なことについて言えば、私は大いに苦しんでいる。2カ月以上私は通りへ出ておらず、映画すら観ていない！ すべては仕事のため。このごろ私は公表用の論文を多く書いている。もちろん、いつ印刷されるか、私は未だによくわからない。

・その問題 [フレイナの結婚のことか] とそれへのあなたの返答について言えば、私は完全にあなたの立場を理解しており、あなたはそれについて何も心配することはない。エピクロスの「人の幸福は過去の経験と将来の期待から成る」の後半を、あなたはあなたの好むやり方で組み立てることができる。前半を供給したのは他ならぬ1/1 [F? = Fraina] できつとあったろう。お休み！ 良き婦人であれ、そしてエピクロスが語るように幸福になるようになさい！

- (1) 片山はメキシコに向けて離米する際「重要な原稿と研究資料」をジャネット・パールにあずけていた。石垣栄太郎「片山潜とその同志たち アメリカ放浪四十年」『中央公論』67巻14号, XII.1952, 239. ロチャ (José Rocha) は、フィリプスが1921年7月に追放先のグアテマラから妻ナタリアおよびサン・ヴィセンテとともに非合法下にメキシコに戻ったあと使用した偽名であり、その名で『共産主義労働者』を編集した。 , *op. cit.*, 156, 174.

- 1921年7月29日 [Katayama]/Mexico, D.F.[Distrito Federal], Mex. to Nonaka [野中誠之]
, 521/1/17/89-90 (2 ×; typed duplicate)

・今朝、今月18日付のあなたの手紙を受け取った。あなたが健康で主義のために働いているのは、非常にうれしい。

・第一に、私の現在の仕事を語ろう。あなたは Kawamoto [河本弘夫か] からアメリカにおける私の仕事について聞いているかもしれないので、私の仕事の性質に話を戻す必要はない。3月末に当地に来て、4カ月になる。明治14年夏に私の生まれた村を離れて以来初めて、私は最も興味のあることをしている、しかも金の心配なしに。

・当地に来て以来、私は大いに宣伝活動を行ってきた。その中で私はスペイン語による週報 [『労働者』] を刊行している。それは14号出た。8月4日に “El Obrero Comunista [共産主義

労働者]”と呼ばれるもう一つの週報を出そうとしている [8月18日創刊か] それから8月15日に月刊誌 “ La Revista Comunista [共産主義評論] ” が出るだろう [刊行が確認されない] 我々は小さな印刷所 [Biblioteca Internacional] を設立し、そこで『国家と革命』を印刷中だ⁽¹⁾。それは来週中に出るだろう。我々はちょうどブハーリンの『共産主義者 (ポリシェヴィキ) の綱領』を印刷したばかりだ。すべてスペイン語で、それぞれ5千部印刷する。全く忙しく私は従事しており、これらの定期刊行物のために多くを書かなければならない。その上、いくつかの声明書や労働諸組織への公式書簡を書かなければならず、またプロバガンダの仕事の世話もしなければならぬ。

・5月半ばに私の主要な活動家たちが逮捕され追放されて以来、私は実際非常に困難な生活をおくっている。深く地下へもぐらなければならなかった。以来、三度移り、今全く安全にいる。ここ2カ月半私は家から外へほとんど出ていない。一、二の同志としか会っていない。[当地の気候がすばらしいとの記述のあと] 私は小さなメキシコ人の家に住み、現地の婦人が料理してくれている。時折、一同志が用事で出向いてきて、数分とどまる。彼は英語を話す。私の仕事はここで数カ月続くだろう、1年かそこらかもしれない。私はスペイン語を学ぼうと努めているが、多くの仕事のため私にとっては非常にむずかしい。

・太平洋岸の日本人について私に書いてもらいたいものだ。あなたの帰国について言えば、当分の間あなたがそれをやめるよう私は忠告すべきだ。なぜなら現況下であなたは日本において何もすることができない。私は N.Y. に印刷所を設立しようと試みてきている。今度はきっとそれに成功するだろう。あなたが我々のためにそこへ行って働くことを望む。なぜなら我々はあなたのような強い男を必要としている。私は仕事が日本のために合州国でなされなければならないと信ずる。なぜなら日本においてそれをするのは絶対に不可能であるから。我々はこの国から日本へ向けて文献を供給するため最善をつくさなければならない。見よ、山川らは書きたいことを書くことができない！ 我々はアメリカを共産主義の我々の学校にし、卒業生を共産主義の福音を説くため日本へ派遣しなければならぬ。N.Y. にはすばらしい仕事をしている非常に良い一青年がいる。それであなたがそこへ行き、彼を手助けすることを望む。まだ設立には2、3カ月かかるだろう。私は日本に活字を直ちに送るよう手紙を書いた。親愛なる同志よ、金の問題ではなく、主義のため身を捧げる同志の問題だ。我々は我々自身のビューローを設立するため直ちに日本人の中に約250名の同志を獲得しなければならない。どうかそのために働いてほしい。この秋、我々はメンバー増のため大いに闘うつもりだ。

(1) 片山は6月5日に本スペイン語版の序文を書いた。片山潜「レーニンの著書国家論に序す」『進め』2年3号, III.1924, 2.

- 1921年8月21日 [Katayama]/Mexico, D.F., Mex. to Comrades [Sada, Sasaki and Shima/New York]
, 521/1/17/93-94 (2 ×; typed duplicate)

・この2, 3日間に私はすべてが当該テーマに関する同志たち Sada [佐田 = 猪俣津南雄], Sasaki [佐々木 = 鈴木茂三郎], そして Shima [島 = 間庭末吉] からの手紙を受け取った⁽¹⁾。概して私はその問題に関してそれぞれ、そしてすべてに同意する。それで私はあなたがたと一緒に答えている。

1) 同志 T. [吉原(源)太郎] の手紙は私に大きな満足を与える。なぜなら彼を推薦する際 M. [モスクワ] の同志たちへ私が書いたことは、同志 T. が強調していることにまさしくついてであった。私は L. [レーニン?] に T. を極東のプロパガンダにおいて使うように書いた（注1参照）。それから私の評論“Japan's place in the coming world social revolution”⁽²⁾ の全体の教義と思想は、その点についてであった。彼の地の同志たちがその問題を重大に受け取り、彼らの注意を極東へ向けることは非常にうれしい。

2) そういふわけなので私は、その問題についてのあなたがたの決定をもちろんは認し、あなたがたがその使命のためにあらゆる準備をすることを希望する。直ちに開始すべき準備の一つは、ドイツ語の研究であり、その言語を学ばなければならない。同志 Sada がこれについて容易にあなたがたを手助けするだろう。

3) 同志 Shima へ、T. のいる M. [モスクワ] へ到着するため、あなたが準備を開始し、レヴァル行の蒸気船への職を得るチャンスを見つけることは非常に良い考えであろう。同志 T. が彼の手紙を英語で書けなかったことは惜しい。もしそうしていたなら、その使命を直ちに果たしはじめるよう手配することは、非常に容易なことであつたらう。アメリカの飢饉救済活動のために、ちょうど今ロシアの港へ行く蒸気船は多いし、これからも多いであろう。あなたがレヴァルに到着するやいなや無事ロシアに入れるよう、私はあなたに信任状を与えるつもりだ。

4) 同志 Sada が帰国しはじめるのは非常に時宜にかなっている。それが早ければ早いほどすべての当該政党にとってヨリ良いと思う。とりわけ、あなたがたすべてが感じているように、我々は本国との良い連絡関係がほしい⁽³⁾。彼は帰国するとすぐ彼の教授職の故に多くの仕事をする事ができる、少なくともしばらくの間、つまり彼が中国における仕事のために用意をすることができる間は⁽⁴⁾。我々が本国からいかなる信頼しうるニュースも得られない時に当惑するか、あなたがたは知っている。本国の同志たちは我々の仕事を導く知識において限られている。それで我々は、我々自身の派遣員によって自らをガードしなければならない。

5) 私の同僚たちは言う、今日ロシアにおける指導者たちは皆かつての亡命者であると。このことは、あなたがたすべてがまさに今考慮すべき非常に重要なポイントである。我々指導者は今日国外にいて、我々が政治権力を握る時大衆を来る革命闘争へと導かなければならない人々であろう。我々はその再建の仕事における指導性のために自ら準備しなければならない。日本においては真の授業が受けられない。

6) ポイント6は正しい。あなたがたは皆アメリカでの仕事を認めなければならないし、我々はその仕事をずっと押し進めなければならない。この点について私はあなたがたと、とくに同志 Sada とほとんど意見が異ならないかもしれない。本国でのプロパガンダに関する限り、私はあなたがたに同意するのだが、アメリカからよりも上海やチタからの方が疑う余地もなく

ヨリ良い。しかし、彼の地で指導者を補充することは、かなり難しいだろう。それであなたがたのような人々を得るため、我々はアメリカにおいて探さなければならないし、彼らを本国での将来のプロパガンダ活動のために鍛えなければならない。

7) あなたがた(3名)が去ることで J.G. [Japanese Group] が弱まるであろうとは、私は信じない、もし去る人々が覚えていて、残留する人々へ手紙を書くことで手助けすることによって植物を育てるとするならば。残って闘う人々にとっては非常に困難であろうが、結局のところ J.G. のための成長と発展があるだろう。我々は既に3名を本国へ、1名をヨーロッパへ送ったが、しかし彼らが去った時よりもヨリ強くなっている。それであなたがたは J.G. の将来について全くおそれる必要はない。あなたがたがすべき唯一のことは、去る前に良い後任を用意することだ。

8) アメリカにおける日本人が当地の出来事よりも本国の出来事によってヨリ鋭く影響されるということは、歴史的にほんとうだ。日本の労働および社会主義運動が成長するにつれて、アメリカにおける日本人は共産主義者の声に耳をかたむける用意がきつとできるだろう。このことはまた、我々が我々自身の同国人の中へのアメリカのプロパガンダを無視すべきでない理由である。私は本社へその効果について書くだらう。それで彼らはその仕事の必要性を認めるだろう。

9) あなたがたが出来しだい、すぐに同志 Sasaki が出発すべきだ。あなたがたの使命は非常に重要なものである。あなたがたは、大衆を目覚めさせ、敵をおどし、ついにはつぶすため、本国に送るべき無制限の弾薬と銃弾をもっている。あなたがたは、できるだけ多くの材料をもっていくべきであり、同時に、彼の地 [ロシア] であなたがたが語ることができるよう日本とアメリカの現在の労働および社会状態をできるだけ多く頭の中に入れていくべきである。

10) 同志 Oka [岡] について言えば、あなたは彼の地で大いに重んじられるであろうし、大いに我々自身だけではなく彼らの仕事も手助けするだろう。今あなたは毎日15か20のドイツ語の名詞を学ばなければならない。

11) 同志 Sada よ、同志 N. [野中誠之] が N.Y. へ来ないか、それとも M. へ行かない場合は、あなたはロサンゼルスに入り、彼を日本へ連れていった方がよい。彼の決定について知らせしてほしい。私は彼に手紙を書くつもりだ。私は彼が帰国する前に N.Y. へ来て、最初に我々の仕事の方法を学ぶことを望む。

12) 印刷所について言えば、私はまだその信念を失っていない。それであなたがたが皆どこにいようとも、できるだけすぐにそれが実現されるよう手助けしなければならない。同志 Taro が1樽のマグネシウム [千ドル] を Y. [Yavki = 片山] の旅費として合州国へ送った。私は彼の友人へ、彼にそれを印刷所へ向けるよう言ってくれるように書いた⁽⁵⁾。

[13): 欠落]

14) あなたがたはレーニンによる『国家と革命』の1冊を残してもらいたい。私は同志 Ritsu [律 = 石垣栄太郎] とともにそれを翻訳するつもりだ。私は当地のアメリカの会社にそれを印刷するよう説くことができると思う。他の重要な文書も一部ずつ、上述の会社に印刷させることができるよう残してもらいたい。

15)最後に、あなたがたすべてが J.G. の将来に気をつけることは非常に非常に必要だ。それが困難なしに進められるであろうように、疑いなく同志 T. は商品を送ってくるだろう。その仕事を誰がしようとも、最も困難な任務は、自分がこの最も困難なものに出会うことができる故に、しあわせと感ずべきだと私は当然思う。同志をあるいはシンパでさえ獲得することは非常に困難であるがしかし、またその困難な任務を行うことにおいて喜びがあることを私は知っている。

・あなたがたが最終決定に達した時、私に書いてほしい。そして私があなたがたの誰かのためになしうことはなんでも私に語ってほしい。

・P.S. 同志 Sada よ: 今日21 [日] である、それで私は今晚彼女⁽⁶⁾の到着を期待している。

本書簡と続く - は、いずれも「清田」の名で差し出され、ロンドン警視庁が入手するところとなり、内務省警保局が1922年1月に作成した『本邦社会主義者ト露国過激主義者トノ関係 参考書類』[荻野富士夫編『特高警察関係資料集成』第1巻(不二出版, 1991), 64-6]の中で紹介・抄訳された。けれども原文と照合した結果、抄訳は一部不正確で事実誤認を招く箇所もあり、さらに紹介されなかった事項も多い。

- (1) 三つの偽名のうち二つは本名が内容から容易に判明する。「佐々木」については、上記『参考書類』では二階堂梅吉と断定しているが、以下の理由で鈴木茂三郎と推定される。一つは、同時期に鈴木が佐々木三郎の筆名で記事を投稿しているからであり(- 注1参照)、もう一つは、本書簡をはじめ検閲され抄訳された関係書簡で「佐田」に次いで「佐々木」が重要な役割を果たしていることからみて二階堂とは考えがたいからである。なお、本文中にある N. と Ritsu [律] は内容からそれぞれ野中誠之と石垣栄太郎と判明し、Oka [岡] については残る渡辺春男と二階堂のどちらかであろうが、『在外邦人過激主義者ノ状況』[荻野編, 前掲書, 第6巻, 135]では渡辺は「春」が該当するとあるものの、偽名に本名の一部を使うとは考えにくい。1921年9月17日付佐々木の在露吉原宛書簡の官憲抄訳によれば、岡と二階堂が並記されており、岡が渡辺である可能性が高い。在伯林小畑少佐の参謀次長宛極秘電報, 1921年10月10日, 外交史料館, 4.3.2.1-1(13)。
- (2) “De positie van Japan bij de komende sociale wereldrevolutie. Verslag van Sen Katayama aan het Derde Congres van de Commintern te Moscou,” *De Nieuwe Tijd* (Amsterdam), Jg.26, No.18-19, 5.X.1921, 587-98; 参照, 前稿, 57. なお, 邦訳の出典は掲載誌が異なり, 副題が除かれた事情が恐らくある。片山潜生誕百年記念会編『片山潜著作集』第2巻(河出書房新社, 1960), 368-82.
- (3) 1921年8月14日付佐々木の在イルクーツク吉原宛書簡の官憲紹介によれば[荻野編, 前掲書, 第1巻, 60], IK [近藤栄蔵]の「検拳ノ結果日米同志間ノ連絡断絶セル」。1921年9月に猪俣はニューヨークを発ち, 恐らく10月1日朝横浜港に着いた。藤田悟「猪俣米国留学考」『猪俣津南雄研究』14号, XII.1972, 63.
- (4) 同じく佐々木の吉原宛書簡の官憲紹介によれば[荻野編, 前掲書, 第1巻, 61], 佐々木らが東回りでモスクワに赴くのとは逆の西回りで佐田は日本に戻り, シベリアでの活動との共同

を一任され、以下のように彼自身が中国へ渡る計画さえあった。「佐田ノ上海ニ於ケル住所決定セハ之ヲ通シテ連絡シ得ルカ故ニ貴下 [吉原] ノ日本入りハ兎モ角モ見合セテハ如何警戒嚴重ニシテ危険ナリ」。また、翌8月15日付佐田らの在露田口宛英文書簡の官憲抄訳によれば [同上, 62], 佐田の帰国と田口のシベリア経由での帰国をともに10月末に合わせようとの計画もあった。それにしても、在米もしくは在墨と在露の日本人社会主義者間の通信が密使を使えず封書の宛先を工夫する程度で、参謀本部特務機関やロンドン警視庁などによっておおかた検閲されては (一部暗号数字化されたものが判読されず、誤訳が時にあったけれども)、彼らの活動が困難化するのとは必定だったと言えよう。

(5) 上記(注1)9月17日付佐々木の在露吉原宛書簡の官憲抄訳に以下がある。「紐育ニ印刷局設置ヲ企テ其資金ハ先ニ吉原ヨリ片山宛送金セル一干弗期待ス然ルニ右行方不明ノ為メ送金ノ確否並ニ所在ニ附キテ紐育ノ.....石垣栄太郎工通報依頼ノ件」。Taro が送った1樽(千ドル)は届かなかったのかもしれない。この計画は「実行ヲ見スシテ止メタリト云フ」。熊崎在露総領事の内田外務大臣宛暗号電信, 1921年12月4日, 外交史料館, 4.3.2.1-1(13)。

(6) 片山の秘書を務めることになる猪俣夫人ベルタ (Bertha) であり、彼女はユダヤ系のポーランド移民で、ウィスコンシン大学留学中の猪俣と知り合い、学生結婚した。彼女は「情動的革命派」のようであったが、1920年初めのパーマー・レイドで逮捕された経験をもつ。参照、藤田, 前掲論文, 13号, X.1972, 31, 39; 14号, XII.1972, 63。「鈴」(ベルタ)の赴任については、既に8月10日頃佐田の在露田口宛書簡の中で記されていたし、現地の彼女については、遅ればせの在墨領事館報告や(7月初めにフレイナとともにメキシコ市へやってきた)夫人エスタの次のような回想がある。「彼女は私の唯一の話し相手で、私たちはいなかをよく探査したものだ。」荻野編, 前掲書, 第1巻, 59; 外交史料館, 4.3.2.1-1(13); Corey, *op. cit.*, 110.

- 1921年8月21日 [Katayama]/Mexico D.F., Mexico to Unzo [田口運蔵] and Taro [吉原太郎]

, 521/1/17/95 (1 x ; typed duplicate)

・Unzo の第四番目の手紙と、Taro の第一番目の手紙をちょうど受け取った。あなたがた二人が一緒にいることは、非常にうれしい⁽¹⁾。

・同志 T. よ、私はあなたについて第2回大会に出席した同志たちから聞いている⁽²⁾。そして私はあなたの手紙を同志 [メアリ・] マーシィを介して得た。求められたように、あなたのもとへ私が出来なくてすまない。なぜなら私は一つの重要な仕事についており、それを Unzo が語るだろう⁽³⁾。ついでながら、親愛なる T. よ、あなたがニューヨークの J.G. へ送ったその金に話を向けたい。それを我々は、週報 (a weekly)⁽⁴⁾ を刊行するため印刷所を始めるのに非常に必要とする。我々が活字と機械を買うことができるようにしなさい。これは我々の主義のために非常に重要である。直ちに行動せよ!

・同志 Unzo よ、N.Y. の同志たちへの私の返答 [-] をあなたに送っており、あなたにその問題の世話を願う。あなたの手紙が示しているように、東洋において我々のプロバガンダの仕

事をするには絶対に必要であり、アメリカからよりより効果的である。直接本国でのプロパガンダに関する限り、あなたの考えに完全に同意するが、しかし私はあなたに、来る闘争において大衆を指導し、革命運動を、ついにはプロレタリアート独裁を統制する人々を我々は補充したいということをおぼろげにさせたい。これらの人々を、少なくとも現在極東においてあなたがたは獲得できない。我々はアメリカを、時折我々の新兵を得るところの一種の共産主義訓練学校にしなければならない。プロパガンダ活動に対する新人を得るため、かくして我々は戦略的地点として J.G. に頼らなければならない。我々は決定的行動のための時機が来る時可能な共産主義同志を供給できるよう、我々のアメリカの組織を成長させるよう保持しなければならない。我々は日本人労働者に本国よりもアメリカにおいて共産主義者の理念と根本方針を説くことができる。我々は J.G. がアメリカとハワイ中に広げられることを必要とする。これをするため、我々は本社からの金とより多くの支援が必要だ。そのことを彼の地の同志たちに伝えてほしい。

・我々は同国人の中でのプロパガンダを効果的に行うため、日本語の週報を欲するし、多くのパンフレットが我々の言語で印刷されなければならない。あなたがた二人はその問題を相談し、J.G. のために直ちに何かをしてもらいたい。

・私は最近の日本労働および社会主義運動についての一評論をプハーリンに送った。本国の同志たちは激しく闘い、彼らの地歩を着実に獲得しつつある。我々の労働階級は経済闘争において急速に前進しつつある。彼らの要求は当節賃金や時間だけではなく組合や共同売買契約の承認であり、彼らはストライキによる工場管理すら掲げつつある。我々の労働者はアメリカの労働者よりより速く進んでいる。

- (1) 吉原太郎はロシア革命勃発以来「渡欧の念禁ずる能はず常にそが機会を伺ひ」1919年4月5日に「石油船に海員として乗込み」離米した。『平民』22号, 1919年7月。田口運蔵は1921年4月下旬にコミンテルン第3回大会出席(吉原も現地から参加)のため離米し、5月末にモスクワに到着した。参照、熊崎在紐育総領事の内田外務大臣宛暗号電信, 1921年6月25日着, 外交史料館, 4.3.2.1-1(12)。

両者の在露中、とりわけシベリアにおける活動について目下アルヒーフ史料が公刊されつつあり、その活動について触れておく。というのは、注4に記したように、吉原の上海行、さらに日本行が、帰国する猪俣の任務と関連していたからである。

1920年7月半ばにロシア共産党(ボ)中央委員会シベリア・ビューローに附属して東方民族セクション(東方人民部)がイルクーツクに創設され、翌8月から活動を開始した。その中に民族別のサブセクションが構成されたが、日本部は日本語に通じた活動家が不在のため当面組織されなかった。12月下旬頃、吉原のイルクーツク到着をまって日本部の活動が開始された。吉原の最初の任務は日本語による文献印刷と日本への輸送の技術的機関の整備だったが、その任務終了後彼の日本への出発が考えられ、彼の出発後はグレイ(B.P.Gray [. . .]); 1年後に訪日し「グレイ事件」を起こす)を日本部の後任にする段取りまで決められた。吉原はひとまず上海への出発を望み、コミンテルン本部へも同意を求めて打電した。東方民族セ

クションとしては、アメリカ（片山）との連絡をつけるとともに予め上海で吉原が必要とする準備をすべて終えたあと彼の出発を考えた。この間、日本との接触の確立はウラジヴォストーク支部と上海支部（ヴォイチンスキー）とで試みられ、それぞれ2名の朝鮮人が日本へ派遣された。コミンテルンの東方政策はまもなく ECCI 東方部に統括されていくのだが、その第一歩はロシア共産党附属で当初実現した諸構造の統合をめざしてそれらをコミンテルン管轄下に移すことであった。1921年1月に東方民族セクションがひとまず解体され、再組織化されることになり、ECCI 極東書記局が創設され、2月末か3月初めに活動を開始した同局の中の日本部において吉原らの活動は継続された。

op. cit., 26-8; *Дальневосточная политика Советской России (1920-1922 гг.). Сборник документов Сибирского бюро ЦК РКП(б) и Сибирского революционного комитета* (, 1996), 148-51, 155-6, 168, 175-8; *ВКП(б), Коминтерн и национально-революционное движение в Китае. Документъ .1. 1920-1925* (, 1994), 48-50.

- (2) コミンテルン第2回大会に吉原は出席していないので、第3回大会の誤記かもしれないが、しかし第2回大会に出席した代表が（ヤンソンも合流し）大挙して翌1920年9月にバクーで開催された東洋諸民族大会に出席し、その時は吉原も参加し、議長団の名誉団員に選ばれており、そのことをさしてではないか。
- (3) ところがコミンテルンは一方的に、1921年8月26日の ECCI 小ビューロー会議で、当時11月にイルクーツクで計画されていた極東諸民族会議に間に合うようモスクワへ来ることを片山に正式に要請することになる。 , *op. cit.*, 79; 村田陽一編訳『資料集 コミンテルンと日本』第1巻（大月書店、1986）、21。
- (4) 『(週刊)労働運動』(13号、1921年6月25日、3)に掲載された在米“CHIYO”の「在米日本社会主義者の運動」の中に、「近々、雑誌『革命』を発行し、全米に大々的の宣伝を試みる筈になつて居る」とあり、週報とはこの『革命』をさすと考えられる。参照、荻野編、前掲書、第1巻、63-4。

- 1921年8月24日 [Katayama]/Mexico, D.F., Mexico to E.C. of Communist International
, 521/1/17/96-101 (6×; typed duplicate)

・5月半ば我々の仕事に従事していた同志たちの逮捕と追放以来、我々の仕事がかかなり困難な状況下にあることを認めなければならない。なぜなら私は身を隠し、二人のメキシコ人同志と仕事をしなければならなくなった。二、三の最良のメキシコ人同志と直接接合することが、当地の真の状態を知る非常に良い機会を私に与えた。最初の6週間は同志ラミレスを通じてすべてのことを行っていたので、その時まで機会をもたなかった。そのようなわけで、あなたがたに書きつつあるのは、メキシコ同志たちとの私自身の個人的体験である。

・あなたがたは以下の私の小報告を受け取ったものと推定する。4月25日付のものは、我々がプロフィンテルンの臨時メキシコ・ビューローを組織し、マーフィ [J.T.Murphy] のパンフレッ

トを刊行し、またメキシコ・ビューローの機関誌『労働者』を始めたことを語った。5月12日
 のでは、我々の財政状態の全般の特徴を伝え、仕事はゆっくりだが着実に前進していると語っ
 た。それとともに、メキシコ・ビューローのための暫定予算案を提出した。5月26日には同志
 の逮捕と追放についての緊急報告をし[-]、それはその問題と我々の仕事についての全般
 の状態とに関する6月5日付のいくぶん詳細な報告によって補われた。

・メキシコ・ビューローの仕事の他に、私はプロバガンダ目的のいくつかの手紙を書いた。5
 月15日に私は、メキシコにエイジェンシーが組織され、通信文と資料がここに送られるべきこ
 とを通知する手紙を中南米に送った（手紙はここに添付される）。6月25日に私は、プロフィ
 ンテルンへの加入を懇請する手紙をプエブラでのメキシコ労働者地域連合（Mexican
 Federation of Labor [Confederación Regional Obrera Mexicana; CROM]）の地方大会へ書き、
 それは集まったメンバーとプエブラの労働者全般へ非常に良い効果を及ぼした。7月1日にも
 う一つプロフィンテルンに関する手紙を私は、オリサバでのメキシコ労働者地域連合の全国大
 会へ書いた[- 参照] それはメキシコ・ビューローの一メンバーであるメキシコ鉄道連盟
 会長によって提出され、読まれた（両方の手紙も同封）。そして8月1日に手紙を私は、ユカ
 タンのイサマルに集まるメキシコ南東社会党大会へ書いた[-]。我々はその手紙を同志セ
 リス[R.Celis]を介して送った。彼はユカタンに2カ月来つづけ、プロフィンテルンのために
 働き、彼の地に共産主義細胞を組織しつつある。既に彼は我々に、重要な組合の一つがプロ
 フィンテルンに加盟したと報告してきた。

・出版について言えば、『労働者』は定期的に出ている。次号が第17号になろう。レーニンの
 『国家と革命』とブハーリンの『共産主義者（ポリシェヴィキ）の綱領』が一週間以内かそこ
 らで刊行されるであろうし、その他3冊の本が印刷中である。プロバガンダ週報『共産主義勞
 働者』が今日第2号を出すだろう。我々は理論的共産主義月刊誌を翌月刊行することを期して
 いる。

・共産主義運動の具体的特徴について言えば、去る5月の外国人社会主義あるいは共産主義指
 導者の追放が私に真の事態を知らせた。二つの対立する共産党がそれぞれの指導者の追放でも
 って影のように消えた。かくして、二つの共産党を統一しようと私が払った努力は全くむだで
 あることがわかった！ と同時に、古い労働者の大部分は多かれ少なかれアナルコ-サンディ
 カリスト的思想に影響を及ぼされており、それ故彼らは政党に、よって共産党にひどく反対す
 ることがわかった。しかし、労働者の中の若者はヨリ年とった労働者より共産主義運動に興味
 をもっており、この特徴を私は共産主義青年組織の中にみた。

・メキシコ共産主義青年連盟は、1920年1月に組織された。それは一代表を共産主義青年のベル
 リン大会に送ったけれども⁽¹⁾、なおメキシコの組織はまる一年、たいていいく人かのアナル
 コ-サンディカリストによって指導された一握りのメンバーで非常に不安定な存在として過
 した。しかし、今年の初めに有能な共産主義同志[ヴァラデス]によって再組織化され、その
 機関誌“Juventud Mundial [世界の青年]”が改善された形で定期的に刊行されている。それ以
 来メンバーは増えつつあり、グループが次々と組織され、それは今日約800の会費納入メンバ
 ーをもった約14の組織を数える。彼らは二つの小さな印刷所をもち、一つはオリサバに、もう

一つはメキシコ市にある。

・ 共産主義青年の指導者たちと相談したあと、我々は共産主義青年の先輩メンバーとともに将来のメキシコ共産党を築くことを決定し、さらに共産主義青年にメキシコ共産党を組織することを手助けするよう求めた。私は共産主義青年へ、大会をすぐに召集することを語り、彼らに共産党組織化のための委員会の委員を任命するよう求めている手紙を書いた。それから同志トムソン [フレイナ] が当地に到着した時、我々は共産主義青年大会へ声明書を出すことを決定し、同志 T. [トムソン] がそれを起草した (ここに同封)⁽²⁾。共産主義青年の大会は8月1日に開かれ、共産党のための組織委員会の委員を任命した。そして今彼らはその仕事について熟議している (同大会の報告も同封)。A.A. [アメリカン・エイジェンシー] の代表は、すぐに任命されるであろう他の組織家とともに、現在の組織委員会のために働かだろ。共産主義大会は来る9月か10月にオリサバで召集されるだろう [12月開催; - 参照]

・ かくして我々の仕事は目標に向かってゆっくりだが確実に前進しつつある。もちろん我々が直面する [以下に掲げる] 多くの困難がある。

1) 我々には活動家が不足している。過去においてメキシコは、いかなる有能な共産主義煽動家も組織家ももったことがない。二つの共産党の創設者であるロイもゲイルも、決して経験をつんだ共産主義者ではなかったし、共産主義者と呼ばれる追従者を一人も残さなかった。ランク・アンド・ファイルの側に過失があるのではなく、党活動についていかなる考えも全くもっていない指導者たちに過失がある。

2) アナルコ-サンディカリストの影響として、政党は労働指導者たちによって軽蔑され、見くびられている。それはまんざらアナルコ-サンディカリストの過失でもない。なぜならメキシコにおける政党は全く腐敗し、ほとんどすべては指導者たちによって濫用されるために存在したから。事実、それらは彼ら自身の個人的目的を満たすために彼らによって組織されている。それ故、労働者たちに既成の政党と我々共産党との間のちがいを示すことが、我々の主要な任務だ。

3) 概してメキシコ労働者は、アメリカやヨーロッパの労働者ほどよく教育されておらず、とりわけ大地主に搾取されている大多数の農民についてそうである。メキシコの労働者と農民は長年 [メキシコ] 革命のために苦難にさらされてきた。彼らは將軍たちや兵士によって略奪され強奪された。

4) メキシコの産業は外国資本家、たいていアメリカとイギリスの資本家によって所有されている。かくしてメキシコの労働者は、これら外国雇用主によって無慈悲に搾取され収奪されている。この最も悲劇的な特徴は、インドやキューバにおいてのように外国支配が経済的もしくは政治的領域で確立されている後進国においてどこでも広くみられる。かくしてこれまで6万以上もの石油労働者が2, 3千を除いて未だ組織されていない。ついであるが、プロフィンテルンのメキシコ・ビューローはメキシコ連邦特別区の労働者総連合 (General Federation of Workers [Confederación General de Trabajadores; CGT]) や IWW とともに石油労働者を組織することをまさに始めた。労働者総連合はタンピコの石油労働者へ声明書を出した (同封)。

・ 今や上記の諸困難に対して、我々はいくつかの希望の側面をもっている。すなわち、

1) メキシコの労働者と農民は革命的である。彼らは過去の革命的経験に失望してきた。しかし、まさにこの事実が我々に将来における社会革命のための非常に良いプロパガンダの理由を与える。我々は容易に労働者と農民に対して、政治革命と社会革命との間のほんとうの相違を指摘し、政治革命における闘いの愚かさを納得させることができる。来る社会革命は彼らが彼ら自身のために是非とも闘うべき唯一の革命である。かくして我々は、メキシコにおける建設的な革命的プロパガンダのための非常に良い地盤をもつ。

2) 革命的精神はメキシコの労働者と農民の中で満ちているのに、大地主と外国資本家は容赦のない搾取者である。メキシコの農民が最近目覚め、利己的な革命指導者のために自分たちが闘う愚かさを悟ったことを知るのには、大いに愉快だ。一枚の落葉が秋の到来を語る！自分たちの中にメキシコ C.P. [共産党] の共産主義セクションを形成したいと望んでいるという意味で、メキシコ市の近くのいなから農民が最近志願していることに我々は非常に勇気づけられている。

3) メキシコは今日、隣国の合州国よりもヨリ多くの演説と集会の自由をもっている。現政府はしばしば社会主義政府として自らを喧伝した。ユカタン州ではメキシコ南東社会党が政府を支配している [- 注1参照]。かくして我々は当地で共産主義プロパガンダの相対的な自由をもっている。我々赤いメキシコ・ビューローの機関誌『労働者』と新しい週報『共産主義労働者』はともに郵送特典をもっている。プロレタリアート独裁は公開集会で賛成・反対とも自由に議論され、そのような集会の議事録は都市のブルジョワ新聞において十分に報じられている。この特徴は我々にプロレタリアート独裁の理念と根本方針を宣伝・普及する最高の好機を与える。

4) メキシコのアナルコ-サンディカリストは、『労働者』の出現以来落ち着かなくなり、プロレタリアート独裁に反対して闘うようになった。最近彼らは共産主義運動、とりわけプロレタリアート独裁の理念に反対して闘うために“Light and Life”と呼ばれる一団体を組織した。このことはいかに共産主義運動が労働者と農民のランク・アンド・ファイルの中に広がりつつあるかを示している。

5) メキシコにおいて社会主義は比較的新しく、共産主義はロシア11月革命までは労働者と農民の中に実際に知られていない。アナルコ-サンディカリズムの文献は数えきれないほどあり、クロボトキン、バクーニン、ブルードン、マラテスタはよく知られており、そして彼らの著作は労働者大衆に入手しやすいほど廉価である。けれども、社会主義文献はメキシコでは非常にまれで、ほとんど入手できない。共産主義文献はなおさらまれである。いくつかの著名な本はスペイン語に翻訳されるが、それらはスペインでブルジョワ出版社によって刊行されている。レーニンの『国家と革命』は3ペソし、それはアメリカの1.50ドルに相当する。マルクスとエンゲルスはメキシコのプロレタリアによく知られず、アナルコ-サンディカリストによって自分たちのために宣伝されており、それ故真のマルクス主義はこれまで全く知られてきていない。ロシア・ボリシェヴィキ革命は労働者と農民の中でよく知られているにもかかわらず、共産主義の根本方針は彼らに理解されていない。しかし、このことは我々にそれを説く良い機会を与えている。

・最後に、この国の現状が以上のようなので、我々はメキシコ共産党を成功するかなりの見込みをもって組織することができるだろう。

- (1) メキシコ代表はベルリンで1919年11月に開かれた共産主義青年インタナショナル(キム)創立大会にも、同じくベルリンで1920年6月に開かれた第1回キム・ビューロー会議にも出席しておらず、片山の勤ちがいであろう。メキシコを代表してヴォーク(E. Woog)が出席したのは、1921年7月にモスクワで開かれたキム第2回大会である。ヴォークはスイス生まれで、スイス社会主義青年同盟に参加し、スイス社会民主党員でもあったが、1919年秋に家族の移住に伴いメキシコにやって来て、メキシコ共産主義青年連盟の創設に加わった(本文で1920年1月と記されているが、正式には8月22日創設)。さらに彼は、スイス時代からのつながりでキムのミュンツェンベルクらと通信し、キムより中・南米の青年組織との接触を委任され、またキムの正式の代理人としてラテンアメリカン・ビューローに入っていた。 , *op. cit.*, 45.
- (2) 1921年7月18日付のエイジェンシーからの呼びかけをさすものと思われる(その呼びかけは、フィルソフの記述に曖昧さがあり、その前の片山の手紙をさすようにとれなくもないが、既にフレイナは7月初めに到着している)。その中で、「この党は大衆から出てこなければならぬし、実際に労働者を代表しなければならない。共産党 これは大衆の党であり、知識人のグループではない」ことが謳われた。 . . . , *Ленин, Коминтерн и становление коммунистических партий* (, 1985), 293.

在墨片山草稿類

- 1921年4月 Fellow workers of Mexico! By Yavki [Katayama]/ Mexico
, 521/1/17/5 (1 x; typed)

・あなたがた、メキシコ労働者を前に演説することは、私に大きな喜びを与える。とくに“El Trabajador [労働者]”の誕生に際して、そうすることは。

・我々すべては今、世界的規模の革命的時代の中にいる。もっぱら最近の世界資本主義戦争によってもたらされたその時代は、世界中で社会革命へと発展しつつある。ロシアの労働者は、今や地主も資本家ももたず、ソヴェト・システムにもとづかれた労働者共和国を真にもっている。

・私の演説の目的は、今は社会革命のテーマではない。メキシコは現代文明にとって絶対必要なすべてのものの中で最も豊かな資源と無制限の富をもっている。にもかかわらず、現実にはあなたがたは幸福でもなく健康でもなく、それから遠い。これこそ私があなたがたに二、三の問題を問いたい理由である。なぜあなたがたの非常に多くが貧しく、半分飢え死にしかけ、多くが靴さえ履いていないのか。考えよ! あなたがたはそれらのおいしい食料や果物を生産している人々ではないのか。社会秩序の現在の配列に何かまちがったものがあると考えないのか。

それらはすべての国の労働者が考え、徹底的に議論しなければならない問題だ。あなたがたと私は是非ともそれらを解かなければならない！

・あなたがたはそれらの重要な問題を議論し、解くために『労働者』を支持すべきだ。

- 1921年6月23日 To: The Congress of the Mexican Federation of Labor [at] Orizaba. By The Chairman of the American Agency of the Third Communist International [Katayama]/New York⁽¹⁾

, 521/1/17/54-58 (5 x ; typed)

・親愛なる同志，あなたがたオリサバに集まったメキシコ労働者地域連合のメンバーを前に，コミンテルン・アメリカン・エイジェンシーを代表して国際労働組合評議会〔プロフィンテルンの前身〕に関して演説することを許してもらいたい。

・国際労働組合評議会は1920年7月15日にモスクワで組織された。その数的力はロシア，イタリア，スペイン，フランス，ユーゴ-スラヴィア，ブルガリア，グルジアの労働組合の8,965,000のメンバーによって表された。以来，多くの国がそれに加盟した。国際労働組合評議会のヨリ十分な説明は本書簡の運搬人に任せて，ここではその窮極の目的を述べるにとどめる。すなわち，

1) 資本主義体制とブルジョワ国家を破壊する目的で革命的階級闘争，社会革命，プロレタリアート独裁，大衆の革命行動の諸理念のために絶えずプロパガンダを進めること。

[以下，6)まで続く。]

以上は国際労働組合評議会の創立大会で定式化された窮極目的であるが，第2回大会が今月モスクワで召集される予定であり，ヨリ広汎な代表者たちによって綱領と戦術が徹底して審議されるだろう。

・私はあなたがたに国際労働組合評議会へ加盟してもらいたい。私が理解している限りでは，あなたがたはアムステルダムの国際労働組合連盟に加盟していない。しかし，あなたがたが加盟していると聞いている汎アメリカ労働者連盟（Pan American Federation of Labor）²⁾に関して二言，三言語るのを許してもらいたい。なぜなら，もしあなたがたが我々に加盟したいならば，あなたがたはそれと絶縁しなければならないからである。汎アメリカ労働者連盟はAFLによって支配されている。AFLのデンバー大会〔1921年6月〕は，クークラックスクリানের「暴徒の暴力」を非難する黒人の議案を無視し抑えた。その代わりに，アメリカ在郷軍人会（American Legion）からの友愛のメッセージを受け入れた！

・今日の労働組合の連盟は，高賃金と時間短縮だけに満足すべきではなく，ソヴェト・ロシアのように全国の産業を統制する目的をもつべきだ。この故に，原則と実践において階級意識的で革命的であるべきだ。それだけでなくまた，既に強力な国際資本主義と帝国主義と闘うためにインタナショナルな組織に加盟すべきだ。この緊急の必要と要求にかなうため，国際労働組合評議会が創設された。今日の国際資本主義が，あなたがたをしてあなたがたの政策と戦術を

反動的から革命的へと是非とも変えることを強いている。

・あなたがたのいく人かは、ありうるアメリカの干渉の故に、AFL との関係切ることをおそれていると聞く。ゴンパースと彼の仲間はワシントン政府にあえて反対して行動しないだろう。アメリカが干渉するかしらないかは、あなたがたの AFL との関係にはではなく、あなたがた自身の態度と立場に依るだろう。[なぜそうなのかの理由説明が続く。]

・同志諸君、プロレタリアートは一つの強力なインタナショナルの下で国内的にと国際的に結ばれた時、資本主義体制の直接の結果である失業、工場閉鎖、貧困など、我々が直面している困難な問題を容易に解くだろう。我々は既に国際労働組合評議会のアメリカ、カナダおよびメキシコの各ビューローを設立している。国際労働組合評議会メキシコ・ビューロー、万歳！革命的階級闘争および来る世界的社会革命、万歳！

- (1) 片山はメキシコ市に滞在中であり、ニューヨークと記すのは不自然だが、権威づけのためかもしれない(以下に掲げる史料の中にも同様の記述がある)。なお、 - では7月1日に書簡が書かれたとあり、本写しの日付より1週間あとだが、内容からみて同一か、もしくは書簡が書き改められたのではないかと推定される。
- (2) 汎アメリカ労働者連盟は、汎アメリカ主義を標榜して AFL 会長ゴンパースの主導の下に1918年11月に創設され、彼が同会長を兼ねた。その大会が1921年1月にメキシコ市でCROM書記長モロネス(Luis N. Morones)らの準備のもとで開かれたばかりであった。

- 1921年7月16日 Morris Hillquit and his new book ["From Marx to Lenin"] and S.P.[Socialist Party]. By Sen Katayama/Mexico City
, 521/1/17/18-45 (28 x; typed)

・先月6月デトロイトでの社会党大会の開幕直前に『ニューヨーク・コール』の三つの号に現れたヒルキットによる「マルクスからレーニンへ」は、アメリカ社会主義運動の中で現れた最も効果的なプロパガンダ文献であるとわかった⁽¹⁾。ヒルキットはその大会で社会党の形を定める、つまり党を真に小ブルジョワ的党にするため本書を書いたにちがいない。彼はなおアメリカ社会党の唯一の指導者であり、彼の過去の力と社会主義運動における影響力は労働者によく知られている。他の著者によって書かれたのなら、本書のような本は党派的文献として無視されてもよいかもしれないが、彼は社会党だけではなく多くの社会主義者の精神と思想を支配した。本書の毒は労働者を誤って導き、裏切り、そして彼らを日和見主義や小ブルジョワ的党派根性へと追い込む。

・本書は三つの章から成る。第1章はソヴェト・システムを取り扱い、彼はソヴェト選挙についてオットー・パウアーを引用することによってその信用を落とそうとしている。概して、ロシアのソヴェト・システムに関する限り、ヒルキットはそれを単にロシアの地方的な産物であり出来事であり、それ故似た状態の国に対してのみ適用できるということを示そうとしている。

・次の章は「東洋と西洋」である。ヒルキットは言う、ロシア革命は早産の革命であり、それ故「劣った」ものである、と。ヒルキットはロシアが産業の能率を維持するのは困難と言うが、彼はロシア・プロレタリアートが反革命勢力やアメリカを含め連合国からの攻撃に対して闘わなければならない状況を全く無視している。ソヴェト・システムはますます顕著な革命機関となりつつあり、政府のソヴェト形態は今や革命政府の世界的規模で認められた形態として抜きんじている。

・最終章は「社会主義インタナショナル」を扱う。ヒルキットは第2インタナショナルの裏切りを不可避的な成りゆきとして認める。ヒルキットは共産主義インタナショナルの執行委員会が事実上ロシアによって資金を供給されていることを攻撃する。疑いなくそれは事実だが、しかし留意してもらいたい、ロシア政府は労働者の政府であり、彼らからの金はアメリカの大会社へのヒルキットの奉仕から得られるその収入源とはちがう。

・[まとめ] 私は本書から何も得るものがなかった。第1章においてヒルキットは諸ソヴェトを扱い、それらをブルジョワ議会主義と比較し、そして諸ソヴェトの信用を落とそうとする一方で、最も重要な主題であるプロレタリアートの独裁を除外する。第2章においてヒルキットは諸ソヴェトをロシアで機能している革命後の綱領として議論し、読者にそれらが西欧諸国には全く適用不可であることを示そうとする。最終章においてヒルキットはロシア革命へのうわべだけの賛辞で始め、それから包括的なインタナショナルの必要性を提起するが、共産主義インタナショナル攻撃へと進む。

草稿1枚目は表題だけ記した表紙で、上段余白に片山の筆蹟とみられる“6 copies”と“Ritsu”がある。6部作成して、一つもしくは全部をニューヨークの「律」(石垣栄太郎)へ送る手はずであったか。

(1) [Cuttings] From Marx To Lenin. By Morris Hillquit. Appeared in the New York Call, June 21, 22 and 23, 1921, , 521/1/17/46-53. 各号の見出しは以下のとおりである。“Hillquit Shows Framework of Soviet System of Government”; “Methods of Russians of Inapplicable in West”; “Russia Put Socialism Beyond Peace Programs.”

- 1921年7月19日 The Communist Party of Mexico and Its Problems. By [Katayama]/Mexico, D.F. , 521/1/17/60-67 (8x; typed)

・ごく最近メキシコに一、二の疑似共産主義組織があったが、しかしいずれも真の共産主義組織の外観をもって組織されなかった。目下我々は、いくつかの(少なくとも4つの)古い社会主義政党が共産主義の名を採用したと聞いているが、しかしその変更の性質と経過がわからない。

・これまでメキシコに真の共産党がなかった理由は、次のとおりである。

1) 旧共産主義グループの指導者は、インテリでもあり、たまたま外国人でもあった。ゲイ

ルはアメリカ人で、ロイはインド人であり、彼らはメキシコのプロレタリアと親密な接触をもっていなかった。

2) 少なくとも両指導者は、いかにメキシコ共産党を組織するか実際わからず、以前に共産主義プロパガンダの経験ももたなかった。

3) 実際コミンテルンが実践的な行動綱領を練られたテーゼに定式化し、様々な国における共産党のプロパガンダや形成のために必要な議案を採択したのは、1920年夏の第2回大会であり、共産主義運動がメキシコにおいて有効な形をとらなかったのは、指導者だけの過失ではない。

4) アナルコ-サンディカリズムの顕著な影響力のおかげで、他のラテンアメリカ諸国と同様メキシコには政党に反対する強力な偏見がある。今日4つの社会主義政党があるが、しかしいずれも革命的要素として意識される労働者の中にいかなる実質的な基礎ももっていない。

5) メキシコにおいては、いくらでもニュアンスの異なる党が指導者によって自らの特別な目的で形成されてきた。それ故、人民や労働者は党の責務とは何の関係もなく、すべてはそれぞれの党指導者と彼の副官によって運営されている。

・コミンテルンは、労働者が自らの独立した政党をもつことなしに決議を実行に移せるとの意見を断固拒む。労働階級はゼネストの手段だけではブルジョワジーに対する勝利を得ることはできない。組織された政党は絶対に不可欠である。

・アメリカの組織された帝国主義と闘うためには、メキシコ・プロレタリアートはよく組織され、厳しく訓練され、そして民主集中の共産党を大いに必要とする。既に多くの共産主義者個人があらゆる地域から共産党の組織を求めている。ユカタンには社会党から形成された一共産主義グループがあり、それはコミンテルンの要求に従ってすぐに組織されるはずのメキシコ共産党に加わるだろう。既に7万か8万の労働者、すなわち労働者総連合とIWWがプロフィンテルンに加盟しており、それ故、彼らは階級意識のある革命的プロレタリアートとしてコミンテルンの一部となっている。

- 1921年7月21日 The Dictatorship of the Proletariat. By [Katayama]
, 521/1/17/68-74 (8x; typed)

・プロレタリアート独裁とは何か。最良で平明でポピュラーな説明は、ブハーリンによって『共産主義者（ポリシェヴィキ）の綱領』の中で与えられている。[以下、引用が続く。]プロレタリアート独裁は、かくして労働階級による社会革命後の労働者政府を維持する手段であり、労働階級の社会革命によってのみ樹立されうる。そしてそれは資本主義から社会主義への移行期に樹立される。

・今やプロレタリアート独裁は、ロシア・ポリシェヴィキ党によってほぼ4年間非常に首尾よく施行されている。しかし、それはロシア・ポリシェヴィキの創案ではなく、厳密にはマルクスとエンゲルスによって述べられたところのよく考え抜かれた理論である。その事実はレーニ

ンによって『国家と革命』の中で徹底的に論じられている。[以下，引用が続く。]

・プロレタリアート独裁の性質と機能を正確に理解するために，ここでブルジョワ国家とプロレタリア国家との相違について一言述べる必要がある。このこともまたレーニンによって『国家と革命』の中で十分に論じられている。[以下，引用が続く。]

・プロレタリアート独裁の主要機関は，赤軍を伴ったソヴェトである。ソヴェトとは何か。私はここでソヴェト体制の詳細に立ち入る必要はない。なぜなら既に数週間前本欄でそのテーマを論じたから。しかし私は，コミンテルン第2回大会で採択されたコミンテルンの[基本的任務についての]テーゼから二，三の文を，とくにソヴェトとプロレタリアート独裁との関係について引用するだろう。[以下，引用が続く。]

・共産主義インタナショナルの根本原理は，プロレタリアート独裁とソヴェト権力である。共産主義者個人および共産党の主要任務は，労働者大衆をプロレタリアート独裁とソヴェト権力において教育することによって，彼らを社会革命に向けて訓練するのに最大限力を尽くすことである。

・プロレタリアート独裁は労働階級の来る社会革命にとって不可避であり，絶対に必要である。ロシアの実例が来る革命のための最良の証明である。我々は是非ともあらゆる国のプロレタリアートを，プロレタリアート独裁とソヴェト権力の理念と原理に習熟させ，少しずつそれらをブルジョワジーの独裁に反対する彼らの日常闘争において実践するため，教育しなければならない。

本文での言及から『労働者』掲載用原稿であろう。

- 1921年7月23日 Soviet Republic of Russia. By Yavki [Katayama]
, 521/1/17/75-86 (12 x ; typed)

・1917年春までロシアは世界中で最も独裁的な絶対君主，皇帝ニコライ・ロマノフによって統治された。ロシア人は世界中で最も抑圧され，虐待された人民であった。

・1917年3月革命は飢えた貧しい人民や貧しい婦人・子供によってなし遂げられた。しかし，彼らはあまりに未経験で，それで革命はロシア・ブルジョワジーによって強奪された。かくして3月革命はブルジョワ階級をつくり，それに同調するメンシェヴィキとエス・エルがいわゆる民主国家のケレンスキーを頭とする革命政府を樹立した。

・1917年11月のボリシェヴィキ革命は最初から最後まで真の労働者と貧農の革命であった。ボリシェヴィキ党によって指導されたプロレタリア革命であった。

・ソヴェト共和国，唯一の労働者共和国は，かくして世界の資本主義と帝国主義の攻撃と経済封鎖の目標となってきたが，しかし反動的・反革命的分子に敵対して体力と能力において成長してきたばかりか，強力なプロレタリア共和国を築き上げてきている。

・ソヴェト体制下で労働者は実際資本主義のくびきから解き放たれている。それで彼らは彼らの社会・政治生活を驚くべき速度と進歩でもって改善してきている。[以下，事例の列記が続

く。]

・ソヴェト・ロシア下の社会・政治組織は世界において全く新しい。[以下、特にその経済分野での発展の紹介が続く。]

・資本主義世界はソヴェト・ロシアの経済・産業政策における変更[新経済政策(ネップ)導入]の報道を、共産主義政策の失敗とみなし、すぐにロシアは再び資本主義国となるだろうと喜んでいる。が、レーニンの演説と著作は明瞭に、その変更は単に生産を増やし工業と農業をこれまでよりより堅固な基盤の上に導くために遅れた農民に対して行ったわずかな譲歩にほかならないことを示している。かくしてソヴェト政府は以前よりはるかに強化されるだろう。ロシア・ボリシェヴィキ政府がより強くなれば、共産主義インタナショナルの運動はより強くなり、そして来る世界的社会革命とソヴェト世界共和国のための勝利がより早まるだろう!

原稿冒頭に「共産主義労働者のために」とあり、『共産主義労働者』掲載用原稿である。

- 日付なし [1921年7月27日よりいくらか前] Manifesto to the Tampico Oil Field Workers. Fellow Workers of Tampico Oil Fields and Oil Industry. By [The Chairman of the Pan American Agency of the Communist International, Katayama]
, 521/1/17/112-115 (4×; typed)

・我々、^{ママ}----- は最もつらく困難な状況にあるあなたがたへ我々の兄弟的挨拶と深い同情を送る。と同時に、タンピコでのアメリカ石油王たちの行為に大いに憤慨している⁽¹⁾。

・そのような異常な状況において、いかにあなたがたが行動すべきか、我々はあなたがたに語りたい。[以下掲げられる5項目のうち、]

2) あらゆる文明国は国の公益のために私有財産を没収する権利をもつ。石油王が労働者を飢えさせ、メキシコの国益を損なうのをやめさせるいかなる権利もないのか。

3) あなたがたの現在の困難から逃れる他の方法がなおある。すなわち、イタリアの金属労働者の例に従って、あなたがたはメキシコの石油産業の責任を引き受けるべきだ。

5) 権力や石油王の側からの不要な争いや誤解を避けるため、直ちにあなたがたは全石油産業を調査する委員会の委員を任命すべきだ。

・このかなり異常な企てを進めるに際して、労働者仲間よ、陸軍か海軍の兵士の挑発にのるな、普段働いているように冷静に整然と行け。タンピコ労働者の成功は、メキシコ全労働者の勝利である。

- (1) 1921年6月、メキシコ政府が石油輸出の関税を引き上げたのに対して石油会社は船積み停止で臨み、2カ月間で約2万人の関連労働者が失業した。一時ながらアメリカ軍艦2隻がタンピコ沖に出現もし、8月には政府は関税率を下げる譲歩を余儀なくされる。

- 1921年7月27日 To the General Confederation of Workers [CGT]. By The Chairman of

the Pan American Agency of the Communist International [Katayama]
, 521/1/17/87 (1 x; typed)

・いくらか前，我々はあなたがたにメキシコ石油労働者への声明書を提出した。あなたがたはそれを受け取り，発行することを決定したと理解している。しかし，それを発行するのをたいそう長く遅らせている。それは石油労働者を組織化のために尽力させる最高の好機である。1日の遅れは，あなたがたがもつ好機の1日分の損失を意味する。

・この声明書とともに我々は，声明書の発表に即座に続くべき石油労働者の組織化の仕事のための行動計画を提出しつつある。これは全くかつ純粹に労働運動であり，政治あるいは政党行動とは何ら関係ないことを，あなたがたは明白に理解すべきだ。あなたがたがその計画を受け入れ，直ちにそれにもとづいて行動すべきことを心より希望する。我々にあなたがたの決定を直ちに我々のメキシコ人代表を通じて知らせてほしい。

- 1921年8月1日 To Congress of Socialist Party of Southeast of Mexico. By Chairman of the Pan American Agency of the Communist International [Katayama]/New York
, 521/1/17/91-92 (2 x; typed); 495/18/66/52-53
[Published in a Russian translation in: *Коминтерн и Латинская Америка*, 29-30.]

・我々，コミンテルン・パンアメリカン・エイジェンシーはあなたがたに心からの挨拶を送り，あなたがたの運動における成功を祝う。また，あなたがたが大会で討議するつもりである将来の運動においてより大きな成功をもたらすことを希望する。

・コミンテルンの執行委員会は，コミンテルンの窮極の目的を促進するために共産党を組織し，北，南，中央アメリカにおいて既に組織されたそれらを手助けする任務を我々に課した。我々の運動の即座の任務は，国内的に組織し，それを強化し，そして北，南，中央アメリカ共産主義諸党を一緒にして，南北アメリカ大陸のプロレタリア運動への最大の脅威であり絶えず成長しつつある強力な北アメリカ帝国主義に敵対する強力な一革命的闘争機関へと導くことである。そのアメリカ帝国主義と首尾よく闘うために我々は，汎アメリカ共産党の革命的旗の下に南北アメリカのプロレタリアートを組織しなければならない。我々は共産主義運動の組織およびプロパガンダの仕事におけるあなたがたの支援と心からの共同を求める。

・あなたがたにコミンテルンへの加盟を求める。第2インタナショナルは既に死んでおり，第2半インタナショナルはゆりかごの中で弱々しさだけを示している。コミンテルンはあなたがたに，この世界的プロレタリア革命運動への参加と世界的社会主義連邦ソヴェト共和国への貢献を呼びかける。ソヴェト・ロシアを支援し支持することは，コミンテルンへ加わることであり，コミンテルンは世界帝国主義列強に敵対する唯一の闘争機関である。

・パンアメリカン・エイジェンシーは，緊急にあなたがたがコミンテルンへの加盟問題を目下の大会において取り上げ，加盟支持を決定することを求める。

・メキシコ南東社会党⁽¹⁾万歳！ メキシコ共産党万歳！
・ [追記] これは、メキシコ南東社会党大会にパンアメリカン・エイジェンシーの特別代表、同志ロベルト・セリスによって提出されるはずであり、彼に対してあなたがたが親切にあらゆる援助を与えるようにしてもらいたい！

(1) メキシコ南東社会党は、ユカタン社会党の名で1918年にカリジョ・プエルト (F.Carrillo Puerto; 1921年11月にユカタン州知事となる) を中心に創設され、1921年に改名した。本文にある党大会は、1921年8月15日にユカタンのイサマルで開催された。 Cf. - ; *Комитетри и Латинская Америка*, 30; , *op.cit.*, 77.

- 1921年8月2日 Who is Responsible? By [Katayama]
, 521/1/17/107-109 (3 × ; typed)

・誰が役人の腐敗に責任があるか。彼らは公僕であり、それ故、雇い主である人民に対して責任がある。役人と彼らの行為に責任があるのは、ほかならぬ人民である。
・鉄道の役人が腐敗していると人民が不平がましく言う。鉄道役人は人民の雇い人であり、雇い主である人民がその腐敗した役人に責任がある。けれども、鉄道役人に気をつけるために人民を駆り出すのは非常に困難であろう。それ故、毎日毎晩その役人の下で働いている鉄道労働者が彼らの行為に気をつけるべきだ。
・今日実際、鉄道労働者は鉄道サービスのすべてを行っており、彼らは鉄道の全経営に現実責任をもっている。にもかかわらず、彼らは高給取りで腐敗した役人より劣っているかのように扱われている。そのような異常で不正な制度を破壊することは、鉄道労働者のまさに責任である。鉄道労働者が彼ら自身の賃金・時間あるいは労働条件だけを懇願あるいは要求するために労働者の同盟を組織することは、十分でない。鉄道労働者の組織は、役人を任命し彼らを監督する権限をもって全経営の責任を引き受けるために改組されるべきだ。あなたがたは全責任をとらねばならない！

草稿 1 枚目の左上余白に手書きで “ August/2, 1921. ” とある。

- 日付なし [1921年7月23日より遅い] Degenerated I.W.W.s/Disgrace to the Organization!
By [Katayama]
, 521/1/17/118-119 (2 × ; typed)

[冒頭『ニューヨーク・コール』1921年7月21日号の、カリフォルニア州などにおける日本人労働者のあいつぐ追放の記事が引用され、続いて『ニューヨーク・タイムズ』1921年7月23日号の、IWW がターラック (Turlock) での穏和な日本人の暴力的追放⁽¹⁾に責任があるとの社説が引用される。]

・カリフォルニアの住民は日本人を嫌っている。彼らが人種的に偏見をもたせられ、貧しい日本人労働者を迫害するのは少しも不思議に思わないが、しかし IWW のメンバー約75名が密かに日本人を襲い乱暴に扱って追放するのは、彼らの名前と組織を汚す以外の何ものでもない。その組織の創設者で公認の指導者、ビル・ヘイウッドは今モスクワにいて、プロフィンテルンを支持している。労働者仲間の追放を望む IWW メンバーは、彼らの組合名を100%アメリカニズムの組合に変えるべきか、それともクークラックスクリンに加わるのがなおヨリよいだらう。

・我々は IWW の良き名のために指導者たちがその問題に気をつけ、当該メンバーに厳しい忠告か修練を与えるべきか、それともそのような卑劣な行為を再び行う前にプロフィンテルンを去るべきか、いずれかを真剣に望む。

- (1) 当時ニューヨークにいた鈴木茂三郎は、佐々木三郎の筆名でターラック事件についてロサンジェルス邦字新聞へ投書し、その中で「白人ユニオン側が強制立ち退きを行ふの已む無き、同胞労働者がストライキブレーカーたるの余儀なき 真に已むなく余儀なきに至らしめた原因、不景気、生活難就職難失業其等の禍根を作り出した資本主義制度を改造するそれこそ根本的問題である。又さうするが為めにも[同胞労働者の]ユニオンの必要を感じず」と、片山とは別の見方を示していた。社会文庫編『社会主義者/無政府主義者 人物研究史料(2)』(柏書房, 1966), 117-8.

- 日付なし [1921年8月5日より遅い] Russian Famine and Reactionaries. By [Katayama]
, 521/1/17/116-117 (2x; typed)

・マクシム・ゴーリキーがロシアの飢饉に襲われた子供と病める人民への支援を求めるアピールを発して以来、全世界は世界大戦後初めて目を覚まされ、同情が際限なく広がっている。

・世界中の人民がロシアの受難者を支援しようとしている間、度しがたい反動的・反革命的な人々はこのつらく悩める時にソヴェト共和国の打倒をたくらんでいる。国際連盟の最高会議が、最も弱い地点を襲い資本主義体制を再来させることによってソヴェト共和国を打倒するケレンスキーの計略に参加するだろうと言われている。それが真実であるうとなかろうと、しかし救済活動に同意するフーヴァー [H.C.Hoover] の動機は人民に疑われている。なぜなら彼は「反革命的亡命者には数百万を与え、ソヴェト・ロシアの飢えつつある子供には1セントも与えず」と宣言したから。

・ロシア外の労働者は自分たちの政府について非常に警戒し気をつけ、そして政府が反革命活動を援助するのを抑止すべきだ。そして労働者は、厳しい時を乗り切るためにロシアの受難者を支援しなければならない。

本文中に8月5日のことが言及されており、執筆はそれよりあとである。

- 日付なし [1921年独立記念日 (9月16日) より前] Centenary of Independence of Mexico/ What We need the Most? By [Katayama]
, 521/1/17/110-111 (2 x ; typed)

・我々のメキシコ独立百周年記念を祝おう！ しかし、それを祝うなおヨリ良い方法がある。我々の父祖たちは自らの奮闘と犠牲によって外国のくびきを振り落とし、我々に独立したメキシコを与えてくれた。この独立を無傷のままにしておくことが、我々自身の第一の責務である。否、それ以上がだ。我々はわがメキシコを支配しようとしている他国の帝国主義のような、いかなる種類のくびきも振り落とさなければならない。我々の労働者仲間よ、もし我々が自らの奮闘と決意によって外国資本主義のくびきを振り落とさなければ、メキシコの政治的独立は将来危険にさらされかねない。この決意とそれにもとづく将来の行動が、メキシコ独立の来る百周年記念の最良の祝いであろう！

[以上が前半の題の草稿で1.25枚を占め、以下が後半の題の草稿で0.75枚を占める。]

・ [メキシコ] 革命によって引き起こされた多年にわたる欠乏と苦難ののち今日我々に必要なものは多いが、しかし最も必要とするのは労働者と貧農の教育である。我々が必要とするのは外国の技芸や産業の輸入ではなく、土着の技芸と産業の系統的な発展と育成である。我々は田畑や工場において人民を有能な労働者にする一般教育と産業教育を欲し、あらゆる村・集落にこの種の学校を欲する。我々に必要なのは実用教育だ。

- 日付なし Leaders and Rank and File in Proletarian Movement. By [Katayama]
, 521/1/17/102-106 (5 x ; typed)

・我々は [メキシコ] 革命においてと同様に政治的分野でも多くの指導者をもっている。彼らのすべては自らの個人的目的を達成するために人民を指導した。彼らは自分自身の目的を果たしたのちは人民を気にもかけなかった。

・今や労働および社会主義の指導者が、最良の例として政治および革命の指導者の次に来た。我々の労働組合指導者は一般組合員を前に多くの約束をし、彼らに支持を求める。しかし、指導者はそれ以上のことは決してなせず、一般組合員がストライキに入る時、組合指導者は概して雇用主のための仲介者となり、妥協的な条件でストライキを終息させる。

・そこで、仲間である労働者ランク・アンド・ファイルよ！ この不幸な状態を直ちにやめなければならない。我々ランク・アンド・ファイル自身の利害を真に代表し、我々すべての幸福な生活のために働く真の指導者を選ぶべきだ。そのために我々自身が第一にしなければならないことが、以下のようにある。

1) 我々是我々の労働組合を真のプロレタリア的組合、すなわち指導者ではなく一般組合員の組合にしなければならない。このことは、我々一般組合員が指導者をもし直接我々のために行動しないならばいつでも罷免できるよう、我々の組合規則を改正することによってなされう

る。この罷免条項は直ちに一般組合員に指導者を監督する権限を与えるだろう。

2) ひとたび我々が組合の代表を選ぶや、我々は彼らが我々に忠実かつ有能に仕えることを命令できるよう、彼らに正規の給料を払い、我々の雇い人として保持しなければならない。

3) 我々は誰からも、上述の条件に従って選んだ我々自身の指導者からさえも、いかなる施しも受けてはならない。なぜなら施しは、金持ちの雇い主もしくは労働者に影響を及ぼし自らの利己的利害へ導きたい誰かからの賄賂を意味する。

4) 資本家階級の尊敬や恐怖さえも受ける独立した労働組合をもつために、我々はまず我々の組合を財政的に自立させなければならない。我々は組合を自主的に維持するに十分な組合費を払わなければならない。

5) 職能別であれ産業別であれ、我々の組合の窮極目的は、資本主義体制の廃止であるべきだ。我々の運動におけるまさにその第一歩は、産業の労働者管理であらねばならず、そして時機が来た時、労働階級のソヴェト政府の下で全産業を国有化すべきだ。そうするために、組合員は自分たちの組合を徹底的に階級意識のある革命的組合にしなければならず、組合はモスクワの国際労働組合評議会に加盟し、革命的党と国内的にも国際的にも共同しなければならない。我々は我々の目的を果たすためにメキシコ共産党と直接共同しなければならない。

・かくして我々ランク・アンド・ファイルは、自分たちの直接の監督下にある新しいプロレタリアの指導者とともに革命的組合のために奮闘しなければならない。

- 日付なし What is Marxism? By [Katayama]
, 521/1/17/120-123 (4x; typed)

・「マルクス主義とは何か」は、小論文で答えるにはあまりに大きな問題である。しかし、『労働者』の読者にとってはマルクス主義の全領域を概説する必要はないだろう。なぜなら彼らは自分自身の日々の仕事に忙しいから、私はマルクス主義の一局面、すなわちとくに階級意識のある革命的労働運動に関するマルクス主義を語ろう。

・マルクスによれば、近代の資本は搾取労働によって蓄積された剰余価値である。資本主義体制は資本家階級による労働の成果の略奪システムである。今日の巨大な資本主義体制の権力と影響力は、文明社会のプロレタリアートを支配し、その貪欲な搾取を後進国人民の中へ広げている。

・この資本主義体制の発展と同様に性質、根源そして成長を明瞭に説明したのが、マルクスである。それから彼は、『共産党宣言』の中で十分に論証された階級意識のある革命的労働運動を創造した。その運動の第一の目的は、プロレタリア革命による資本主義体制の打倒である。

・マルクス主義の根本理念は、経済的進展であり、歴史の経済的解釈もしくは歴史の唯物論的解釈である。と同時に、近代資本主義と産業プロレタリアートの境遇の綿密な科学的分析である。

・マルクス主義は絶えずどこでも階級意識のある革命的プロレタリアート運動の国際的性格を

強調する。

・マルクス主義はある意味では、最終的に世界的社会革命に達するところの、資本主義に対するプロレタリア階級闘争と階級戦争の科学である。

・かくしてマルクス主義は労働者とすべての農民によって学ばれるべきで、それを自分自身の人生の目的と根本方針にすべきだ。

本文での言及から『労働者』掲載用原稿である。

在露片山報告 あとがきにかえて

- 1922年1月10日 Sen Katayama/Moscow to The Members of Small Bureau [of the ECCI]
, 5/3/145/2-5⁽¹⁾ (4×; typed and autographed)

・私はアメリカとメキシコにいた時、できるだけ多くあなたがたに報告書を郵送した。しかし、あなたがたに報告したいある事を私は書簡でそうすることができなかった。今私はここにおいて、アメリカン・エイジェンシーに関して私が経験したことを知ることにあなたがたが恐らく興味をもつであろうある事を語ることを義務だと感ずる。

・あなたがたはアメリカン・エイジェンシーを葬った。昨年10月4日あなたがたに報告したように、私はあなたがたがそうするだろうと予期していた。事実、エイジェンシーは財政問題では廃止されたようにふるまったが、しかし政治的にはまだだ。ここに私が書くことは、あなたがたが合州国、メキシコ、南アメリカに対してコミンテルンの政策を追求することにおいて、いくらか興味あることであろう。

・エイジェンシーは、二つの共産党が統一問題で互いに争っていた1921年1月前半に組織された。どちらの党も当初エイジェンシーを歓迎せず、アメリカ共産主義運動への侵入者として疑いの目でそれをみた。しかし、エイジェンシーの一員である同志スコットが、UCP [アメリカ統一共産党; 1920年5月末の統一大会で共産党と共産主義労働党が合同してできた] のメンバーであり、当該党を理解する一手段であった。共産党 [アメリカ共産党の多数派は統一に反対し旧党に残った] の協力を得るのに5週間かかった。この協力は、エイジェンシーがプロフィンテルンを宣伝し、プロフィンテルン第1回大会への代表を選ぶのに必要だった。エイジェンシーは代表を選ぶことに成功し、同志フォスターとハイウッドを送った。この選出は概してUCP 執行部の助けを得た同志スコットの仕事だった。このことは当然より多くのUCPの要素が代表の中に反映されるようにした。

・同志フレイナが、共産党大会に出席するため、そしてプロフィンテルン大会への我々の代表選出への最終的認可を与えるために到着した。エイジェンシーの全員がエイジェンシーのための計画と予算を立てる一方で、二つの共産党の統一のための案をコミンテルンに提出した。また、我々はカナダにおける共産党を組織する仕事に直ちに着手することを決定した。二つのアメリカの共産党は自らの支部をエイジェンシーへ引き渡すことに黙従した。

・エイジェンシーが遭遇したまさしく最初の困難は、ベルリンに残された金をエイジェンシーが得られなかったことである。エイジェンシーはプロフィンテルンとコミンテルンの仕事のために充てられた3万[ドル]から既に1万5千を使った。代表をモスクワに送るために5千が6千以上必要だった。この困難を片づけるために、同志フレイナがベルリンに向かって発たなければならなかった。彼の最終明細書が示しているように、フレイナはベルリンに1921年4月1日から6月5日まで滞在し、2万ドルを二口に分けて同志スコットに送り、27,200[ドル]を現金でメキシコに自ら運んだ。フレイナは、スコットがあなたがたに書いたように「ベルリンで始終遊んで過し」たのではなかった。彼はビジネスマンではなく、他の同志もおらず、その金額を取り扱うために彼にはかなりの時間がかかった。彼はコミンテルンに対していくつかの論文を書き、そしてエイジェンシーに日刊紙、印刷所、そして書籍・パンフレットについて提案した。エイジェンシーはそれらの提案を可決したが、しかしスコットがそれらを実行しなかった。

・アメリカの同志たち、とりわけスコットを含めて古い UCP 指導者たちは、共産主義運動の状況をより広い国際的な立場から把握できない、自らの国境を越えて共産主義運動をみる事ができない。国内においてさえ彼らは、アメリカ・プロレタリアートの大多数を構成している外国人へほとんどが全く注意を払わない。いわゆる英語を話す労働者と社会主義者、そして現在のアメリカ共産党中央執行委員会のように共産主義指導者でさえ、たいてい外国人ではあるがアメリカ化されており、彼らは社会主義および共産主義運動における外国人の力と影響力を最小に見積もる。

・エイジェンシー議長[片山]は、かつてこのアメリカの偏見に遭遇した。—エイジェンシー[会議]がスコット、ハーパー(Harper (Julius Heiman [Hyman])),そして私の出席でもたれ、アレン(Allen (Max[jimilian] Cohen))が書記を務めた。ハーパーはプロフィンテルンのアメリカ労働者ビューローの会計にもエイジェンシーによって任命され、また自分は「トムソン(フレイナ)の代わりを務めている」と書記に口述した。かくしてエイジェンシーの会議が始まった。ハーパーは、黒人ビューローの廃止、アレンのアルゼンチン派遣の中止、私のメキシコ行の断念を提案した。スコットはそれらの提案に反対しなかった。彼らは私を攻撃したが、私は反対し、議論のあと以下を合意した。アレンを千ドルもたせてヤヴキ(片山)を二千ドルもたせてそれぞれ派遣すること、(両者とも古参共産黨員である)ローズ・ストークス(Rose Stokes)とジェニー・ディーン(Jenny Dean)に無給で黒人ビューローを維持させること、そして獄中の同志たちのために使われるよう UCP に400前払いすることを。

・私は会議の結果に満足せず、直ちにフレイナと接触し、彼はハーパーに自分の代わりを務めるいかなる権利も力も与えなかったことがわかった。次の会議でハーパーは、私とその地位に不適任だと言い、もしあなたがたに語れば、あなたがたは私を解任するだろうとも言った。彼はスコットと私に、自分が資金を維持するつもりだ(ハーパーはほとんどすべての資金を手中にしていた)、そして3人のメンバー(スコット、フレイナ、ヤヴキ)による受領書へのサインなしには一銭たりとも渡さないだろうと語った。私は共産党から運転資金を借りなければならなかった。私はよく覚えているのだが、その同じハーパーがルーセンバークとファーガソン

[I.E.Ferguson] に、全資金 8 千ドルかそれ以上を共産党からもち去るよう忠告し、そしてそのすべてを彼の少数派の党、UCP のために使った。このハーパーの要求と行動に対して、スコットは黙認した！ フレイナの書面による提案と私の賛同をもって、私はスコットを説得し、苦勞のあげく我々は資金を掌握した。

・ [1921年] 3月18日に私はメキシコに向けてニューヨークを発ち、3月31日にメキシコ市に到着した。私は1万以上スコットに残し、5千もってきた。のちにスコットはフレイナによってもたらされた5千ドルの紙幣を得た。そしてフレイナはスコットに2万ドルを2口に分けて送った。かくしてエイジェンシーは、アメリカとカナダのために、アレンのための費用⁽²⁾を加えて約45,000ドル使った。

・ 私はメキシコで4,771ドルで仕事を始め、4、5、6月の3カ月間で4,735ドル使った。私は6月の前半にスコットから3千ドル得た。私はメキシコに関する財政報告を三度あなたがたに送ったが、しかしスコットは私がニューヨークを発ったあといかなる報告も送らなかった。彼は何度もそれをするを約束したが、しなかった。彼は財政報告をあなたがたと私に送ったと最近聞かされたが、私は未だにそれを得ていない⁽³⁾。

・ 私はスコットが以下のような趣旨の報告をしたと理解している。「同志片山とフレイナは新党を要求した。それについてバラ色で書かれたメキシコ報告がある。それは多くを言っているが、実際にはそれについて何も無い。」10月半ばに書いたものの中でスコットは言っている。「約一月前フレイナがそこ(メキシコ)に到着した。今日にいたるまでほとんど何もそこでなされていない。」私はスコットがあなたがたに言うことに論評を加えないだろう。しかしながら、このことは言うべきだ。フレイナはメキシコ市に1921年7月1日か2日に到着したのであって、9月半ばではない。フレイナは到着するとすぐメキシコ共産党のために働き、12月にオリサバで共産党大会ではないが共産主義者大会を開くことが計画された。私が10月28日にメキシコを去る時、既に17の共産主義細胞があった。我々の目的は、そこに彼ら共産主義細胞の代表が集まり、そして順当にメキシコ共産党を創設すべき、その共産主義者大会のための呼びかけを発する前にできるだけ多くの共産主義細胞を得ることだった。

・ 1921年2月ニューヨークで初めて一堂に会した時、我々は皆、3名全員、すなわちスコットとフレイナと私がメキシコに赴くことに賛成した。スコットはモスクワに向けて代表を乗船させるやすぐに発ち、私は直ちに発ち、フレイナはカナダ経由のはずだった。しかし、フレイナはドイツに行き、スコットは5月までぐずぐずした⁽⁴⁾。二つの党の統一のための行動にスコットは6月初めまでかかると我々は受けとめた。その時が過ぎてスコットに何度も来るように手紙を書き、フレイナが到着した時、7月6日に我々はスコットに打電し、手紙も書いたが、彼は来なかった。9月28日に届いたスコットの手紙の中で、「私は B.B.Comp. (本社) からここにどまり、Dix. [= Joseph Dixon? = E.R.Browder] と Nathan M. [= Marshall? = M.Bedacht] を待つよう指図された」との理由が与えられた。もし我々があなたがたからのそのような重要な指示を知っていたなら、我々は彼に何度もメキシコに来るよう求めはしなかったのに！

・ メキシコにおける我々の仕事は、様々な事情故に非常にのろかった。最初の3カ月間、私は多くの積極的な仕事をするのに一人で、資金も限られていた。しかしながら、赤色労働者ピュ

ローを組織し，CGT をしてプロフィンテルン第1回大会に一人の代表を送らせ，週刊『労働者』を創刊し，マーフィ著のパンフレットを刊行し，そして産業中心地での実際のプロパガンダを二人の現場組織員とともに始めた。しかし，あなたがたに報告したように，急進運動に関係する外国人はすべて逮捕され，国外に追放され，我々の活動家4名が5月半ばに追放された。5月半ば以来，私は隠れながら，共産主義運動の基礎を築き上げるためにメキシコの同志とともに働いた。フレイナが来た時，我々は共産主義細胞を形成する実際の仕事を開始し，メキシコ共産党の組織委員会の下で我々の仕事を押し進めることができた。

・南北アメリカの共産主義運動は，最初にアメリカ帝国主義とその資本主義の打倒をめざすべきだと私は考える。メキシコや南アメリカ諸国における強い共産主義諸党がなければ，力強いアメリカ共産党によって指導されたアメリカ共産主義運動でさえ，アメリカ資本主義に激しく一撃をくらわすことができないだろう。なぜならアメリカの資本主義と帝国主義はそれらの国々に広く基礎をおいてきているから。メキシコは中・南米への要所であり，南北アメリカの連結環である。コミンテルンは強いメキシコ共産党を必要とし，それをアメリカ資本主義の帝国主義に死の一撃をくらわすであろうアメリカン・共産主義インタナショナル（American Communist International）の連結環とする。この重要な仕事をするため，エイジェンシーは来るコミンテルン第3回大会とプロフィンテルン創立大会の一月前に[汎]アメリカ共産主義者および赤い労働者の会議を開くことを提案し，その宣言草案を作成した。

・最後に一，二加える。一つはアメリカン・エイジェンシーの廃止の噂である。私はこれを共産主義的規律の問題として語りたい。9月に信用のおける同志がニューヨークから私に書いてきた。「ここでの話によると，エイジェンシーはすぐに廃止されるであろう。」それから9月16日にスコットが書いてきた。「戻ってきている人たちから私が知らされたところでは，本社においてはエイジェンシーが廃止されるであろうとの感情が満ちている。」この噂はアメリカ共産党執行部の態度の中に反映し，彼らはエイジェンシーを最も侮辱的な調子で取り扱った。エイジェンシーによってアメリカ共産党中央執行委員会へ送られた熱心で誠実な諸要求を，彼らは最も冷淡で全く非同志的なやり方で取り扱った。我々は全く個人的な高潔と相互信用に全く頼らなければならない。しかしアメリカ共産党においては，さまざまな噂が共産主義運動を無能にするためにおこされる。

・もう一つの例をあげると，フレイナは1921年11月16日付で[メキシコを発った片山へ]書いてきた。「新しい興味深い展開があり，それについてJ.[ジャネット・パール]とアレンが私に書いてきた。アメリカの党では私について以下の噂が言い触らされている。1) 私はM.[モスクワ]で信用をそこなわれている。なぜならE.C.[ECCI]が私にM.に来るよう命令したあと私がベルリンから逃げたから。2) 私が莫大な額の金をむだ使った。3) 古いスパイ裁判が私に対してM.で再開されようとしている。4) アメリカン・エイジェンシーは合法的党理念をめぐる党内闘争に干渉していた。とくにJ.らが，中央執行委員会と合法政党と闘うことで反対派と共同するため，私に合州国へ来るように招き（そして私はそれを受諾した）。

・再び1921年11月22日付でフレイナは書いてきた。「私はアメリカ共産党の中央執行委員会に我々が提案した汎アメリカ共産主義大会について意見を表明することを求めたが，返答なしだ

った。私は提案されている汎アメリカ労働者大会について合州国のプロフィンテルン代表に二度手紙を書いたが、返答なしだった。私の論文（8つのうち4つはメキシコを、一つは中央アメリカを取り扱っている）は、いずれも印刷されなかった。中央機関紙で働いているアレンが私に書いてきた。『あなたの論文のいずれも印刷されないだろうとわかった。私の情報収集の限りでは、あなたの共同と作業を求める嘆願のいずれも気にも留められないだろう。あなたは「忘却」へと追いやられてしまっている。現在の中央執行委員会においては、あなたは石壁に突進している。』触れまわっている噂を調査と責任ある当局とのふさわしい意思疎通によってやめさせることが、共産党における規律の重要問題である。

・もう一つ、あなたがたに調べてもらいたい問題がある。それはエイジェンシーの金の問題に関わる。1921年4月18日にスコットが私に打電した。「Lillebit [*sic*] (フレイナ) 会社からマグネシウムの15個の樽を受け取った。どれだけあなたは必要とするか。」同日に私は答えた。「5樽を会社などを通じて私に船で送ってほしい。」5月6日にスコットが私に打電した。「Hamburger [スコット] は3樽を送った。受領の通知をしてもらいたい。」私に提出されたフレイナの財務明細書は、次のとおりである。

ハンブルガー (Hamburger (Scott)) へ	10,000.00ドル
メンデルス (Mendels ") へ	10,000.00ドル
M.[Mendels] 電信[送金]のため (銀行小切手 ⁽⁵⁾)	245.00
H.[Hamburger] " " " "	205.00

[これを]同志 F. [フレイナ] は昨年7月に書いたが、しかし私がメキシコを去るまでに彼はスコットから返答を受け取らなかった。

・噂のための余地がないように可能な限り我々が明らかにすることが、共産主義運動のための規律と秩序の問題である。

ECCI 小ビューロー宛の本報告は、レーニンへ「どうかそれに目を通してもらいたい」との片山の強い意向から1922年1月12日付の短い書簡とともに送られた。 , 5/3/145/1; cf. “

“ . . . ,” *Известия ЦК КПСС*, 1989, No.5, 211.

- (1) フォント5は人民委員会議長レーニンの書記局文庫で、うちオ・ピン3は国際共産主義・労働運動の指導に関するレーニンの文書資料(1917-23年)のファイルである。
- (2) ヘンリ・アレン(コーエン)は1921年5月1日にブエノス・アイレスに到着し、そのあと7-8月にブラジルへ赴き、そして9月15日にニューヨークに戻って10月12日にその総括的活動報告書(決算報告書添付)をコミンテルン宛に書いている。 *Коминтерн и Латинская Америка*, 31-5; , *op. cit.*, 86.
- (3) スコットの財政報告とは1921年11月8日にジノヴィエフ宛てた「在米第三『インターナショナル』二関スル経費決算報告書」のことであろうが、現物未見。荻野編, 前掲書, 第6巻, 134.

エイジェンシーの3代表のうちヤンソン以外の片山とフレイナに関する収支決算は、本報告と公表済みのジノヴィエフとピャトニツキーのフレイナ宛各書簡(1923年4月18日, 12月

18日), および両者の中間期にまとめられた二つの決算報告を米国軍情報部がそれぞれ入手し報告した文書によってほぼ解明されるが, 細部のくいちがいの是正はなお困難である(最後のは密偵報告ではあるが, 群を抜いて詳細で, 他と比べて信憑性もある)。H.Klehr/J.E.Haynes/K.M.Anderson, *The Soviet World of American Communism* (New Haven/London, 1998), 197-8; Correspondence of MID, 10058-24-155, 10058-0-99-1. この収支の問題は, 本文にあるようにヤンソンとのトラブルだけではなく, まもなく運動から離脱するフレイナによる使途不明金問題へと発展していくのだが, その詳細を記すのは稿を改めてのことになる。

- (4) フレイナは2月10日から24日までニューヨークに滞在し, 翌25日から3月14日までモンテリオールに滞在したあとメキシコに向かわず, リヴァプール, ロンドン経由で, 本文にあるように資金調達のためベルリンに戻った。Correspondence of MID, 10058-24-155.
- (5) 注3の別史料(10058-24-155)では, 「銀行手数料」とある。また, H. の銀行小切手(手数料)205ドルも125ドルとあるが, M. のと比べて前者が理にかなっているだろう。

1922年4月27日に片山はメキシコ市の同志へ手紙(未詳)を書き, 7月14日に数日前受け取ったばかりのその手紙への返事をヴォークが活動名シュティルナー(E.Stirner)で書いた。521/1/74/2-3. 「あなたが元気で, モスクワのE.C.[ECCI]で今働いていることを我々は喜んでいる。確かにそこからあなたは日本における運動をずっとよりよく統制できるだろう。」続けて, 当地の近況報告がなされ, そこにはパンアメリカン・エイジェンシーの活動の終熄が, 以下のように記されていた。「F.[フレイナ]から昨年12月にここを発って以来, 我々はいかなる手紙も受け取っていないし, 彼が目下どこに止まっているのかもわからない。」「合州国におけるC.P.[共産党]の人々に対して, 我々は声明書等を共同で刊行するより緊密な共同作業に関して数度手紙を書いたが, しかしいかなる返答も得なかった。彼の地の人々はメキシコを絶対に無視してよいものとみている。確かにメキシコは世界政治の中で第一級の役割を果たさないが, しかし合州国の同志たちは, 国際的な仕事のためには中南米諸国により多く関心をもつべきだ。」一方, 片山はその年初めの極東諸民族大会への出席を皮切りに, 終焉の地となるモスクワで新たな活動を開始していた。

[付記] 本稿は2000年度文部省科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))による研究成果の一部である。

(やまのうち・あきと 宮崎大学教育文化学部教授)